

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
1	音楽施設は不要。予算を若年・子育て世帯住み替え助成金に回してほしい。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
2	市民生活が困窮化している中で、多額の市税を使って音楽ホールを整備する必要があるのか。市内の他施設の稼働率も高くない状況で元が取れるのか。財政健全化を公約に掲げているのであれば、市民がより必要としている支援をよく聞いてほしい。		
3	生活がひっ迫しているなかで、さらに税負担を負わせて整備を進めることは到底納得できない。		
4	多額の費用をかけてホールを作るより物価高対策を優先すべき。		
5	巨額の税金の無駄遣いであり計画に断固反対。本当に必要なところに必要な支援を。		
6	音楽ホールより子どもの室内遊び場をもっと整備してほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 とりわけ、乳幼児を含む子どもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しています。	令和8年 1月16日
7	どれくらいの経済波及効果を見込んでいるのか。たった2000人規模の音楽ホールは年に何回使うのか。 複合施設を整備するのであれば、5大ドームに並ぶ東北のドーム建設を希望する。	本施設では、毎年の施設運営・事業展開によって年間約54万人、約47億円の経済波及効果が見込まれると推計したところです。さらに、魅力的なコンテンツの創出や青葉山エリアの様々な資源と連携したエリア全体の魅力向上、建築の魅力の発信などの取組みにより、これにとどまらない地域活性化や交流人口・関係人口拡大の効果をもたらすことを目指してまいります。 また、仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。 ドームで行われる規模のコンサートとは別に、ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。 引き続き、市民の皆様や専門家の意見を伺うとともに、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら、整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
8	建設費が高騰するなかで整備を進めることに納得できない。建設費に対する収益も少ない。経済波及効果は県民によるものが中心で、県外や外国人によるものは少ない。また検証にあたっては専門家の意見と市民の意見を取り入れてほしい。中途半端なホールを整備するなら、コンサートなどで多目的で多くの人を収容する大きなドームを建設してほしい。		
9	多額の費用を音楽ホール建設に充てるより、中心市街地の活性化や子ども・若者向け施策、物価高対策に予算を使うべき。また、音楽ホールはすでに複数施設がある中で採算が取れるのか。既存施設の老朽化が問題なのであれば改修すればよい。ドームを作り、大物アーティストがライブをすれば経済効果も大きいので、ドームを作ってほしい。		
10	建設を止めて欲しい。音楽堂も震災遺構伝承もなぜ必要なのか。箱物を創って建設需要を増やすために莫大な市民税を使わないで欲しい。その後の維持コストも馬鹿にならない。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 中心部震災メモリアル拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
11	多額の税金を使って複合施設の整備は不要。また、災害メモリアル拠点も市内複数個所に存在しており、新たに整備すると維持費もかさむ。市民に有益な税金の使い道を考えてほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。沿岸部と中心部の2拠点体制を活かしつつ、文化芸術と連携した防災力向上の取組などを検討し、次の災害に備え、乗り越える文化の醸成に努めてまいります。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
12	市民ワークショップは平日の昼間開催と聞いており、高齢者や障害のある市民など、多様な市民意見を集める場、対話する場を設けて欲しい。	令和7年6月から8月の土日祝日の日中に市民ワークショップを開催し、小学生から高齢者までご参加いただいたところです。 中間案を公表した令和7年11月以降、市民活動団体や障害者団体の方との意見交換の場を設け、本施設に関するご意見を伺っているところであり、今後も機会を捉えて、多くの方の意見を伺ってまいります。	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
13	・設計者選定時の案からの変更点として大ホールが独立した配置となり、複合施設としての目的や藤本氏が企図した開かれた広場というコンセプトから離れているように思われる。大ホールホワイエはロビーと連続した形とし、有料コンサート開催時のオペレーションには可動壁やロープ等で対応可能ではないか。現状案の大ホールのホワイエは狭苦しく、トイレの行列で埋まりかねない。東京文化会館のように広いロビーで歓談と交流が広がるよう、工夫をしてほしい。 ・1階の大ホールのトイレは男女ともホール北側(ステージ上手)に配置されているが、ホールの上手側にも設置してほしい。もしくは今の男性トイレを必要に応じて女性用に開放できるよう通路や可動壁を設けてほしい。その代わり男性用はロビーにあるトイレを拡充しロビーに人を誘導してはどうか。行列なしのトイレを目標にしてほしい。 ・食事のできる「レストラン」ではなくて居心地の良いサードプレイスとしてのカフェが必要である。多賀城市立図書館に併設されているスターバックスを見ても集客力は絶大だ。設計段階から同社と協働し新しいスタイルの店舗の展開も含めて検討すべき。 ・クロークに要する人手を考えるのであれば、衣服を入れられるタイプの無料コインロッカーの方が利用が多いのではないか。	大ホールホワイエとロビーにつきましては、公演を主催される方々より、公演時のセキュリティ等の観点から固定の柵または壁で明確に区切ることを望む声をいただいているところございます。 トイレの混雑軽減の視点は重要であると認識しており、このことを含めホワイエ内がより快適な場所となるよう、空間のあり方や機能配置について引き続き検討を行ってまいります。 また、カフェ、クロークのあり方につきましても、今後の検討の参考とさせていただきます。	令和8年 1月16日
14	学生時代、施設職員が特別にベルリンフィルのリハーサルの見学と、当日券を安価に販売してくれて感銘を受けた。このホールも日常的に人の居場所となるような良質な現代建築になると良い。	いただいたご意見を参考に、多くの方が気軽に訪れる施設、未来を担う若い世代を育む施設を目指し、運営や事業のあり方の検討を進めてまいります。	令和8年 1月16日
15	仙台駅前の旧さくらの百貨店の跡地活用、こどものための施設を整備するよりも先に音楽ホールを整備する理由がわからない。ホールを整備するのであれば、楽天球場をドームにするほうが良い。	仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。ドームで行われる規模のコンサートとは別に、ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。 なお、こどものための施設といたしましては、西公園への屋内遊び場の整備に向け基本計画の策定を進めているほか、本施設においても乳幼児を含む子どもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しています。	令和8年 1月16日
16	複合施設整備よりも、自然環境保護、熊対策、メガソーラー中止のために予算を優先して使うべき	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。	令和8年 1月16日
17	建設に反対。一部の市民の希望を叶えるために巨額の予算を使い、箱物を作るのはやめてほしい。市民にいったいいくらの借金を背負わせるつもりなのか。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。	
18	建設費が高騰している現在において子どもたちに負債を残す整備はやめてほしい。それよりも物価高対策や減税対策など、困窮者対策の方が優先度が高い。	事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	
19	これ以上の新たな施設整備は不要である。整備費用があるのであれば、光のページェントの点灯時間を早めたり、青葉通りにページェントを復活した方が市民は喜び、集客も伸び、仙台は活性化するのはないか。		
20	市民説明会において質疑応答の時間が不十分だった。質疑応答中心の市民説明会を再度開催すべき	市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきましては、随時、市の考え方を回答してまいります。 また、今後につきましても、市民の皆様からのご意見を直接伺う多様な機会を設けてまいります。	令和8年 1月16日
21	・市民ワークショップの取り組みは評価するが、本来は施設計画ではなく事業運営計画のために活かされるべき活動だ。将来の事業運営に携わる組織が責任をもって関わり、きちんとディレクションしていかないと、ただの一過性の雰囲気作りで終わってしまう。事業についての検討成果を施設計画に反映し、施設計画での知見を将来の運営に反映できるよう、組織づくりを急いでほしい。 ・災害文化の創造と発信のためには、もっと層の厚い事業を体系的に展開しそれを言語化していくと同時に、伝承とアーカイブという「根の部分」をしっかりさせてこそ実を結ぶ。そのためには、災害文化をきちんと言語化でき、かつ地道な蓄積と将来を見据えた発信力を支える専門家の専従が不可欠である。 また、「根の部分」のための作業環境、例えば被災物を扱う調査保管や搬出入ルートがきちんと想定できているか心配だ。 ・災害文化の発信が押し付けと捉えられないよう空間的な配慮を検討することも必要だ。 ・2000人のキャパを減らしてもパイプオルガンは必要。パイプオルガンの荘厳さは、震災メモリアルにふさわしいシンボルとして大きく貢献するのではないか。	市民ワークショップでいただいたご意見は、施設設計だけでなく、開館後の事業展開にも生かしてまいりたいと考えております。指定管理者となる団体の選定は今後進めてまいります。選定後は指定管理者と共に管理運営に関して検討を進めてまいります。 災害文化の創造と発信にあたっては、中心部拠点にかかるこれまでの検討や今回いただいたご指摘も踏まえ、専門家ははじめ多様な方々のご意見を伺いながら、事業や運営のあり方等を検討してまいります。 本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の方々の多面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
22	・中途半端な場所に、中途半端な規模・使用目的の施設は不要。 ・震災を語り継ぐためには、被災した場所で行い、現地に足を運んでもらって感じてもらうことが大切だ。メモリアル拠点を作っても心は動かされない。 ・コンサートができる収容人数ではないため、整備費に対して見込める収益は見合わない。市内各所にホールがすでにあるため、既存施設を快適化させることがコストパフォーマンスの観点からも推奨される。	伊達政宗公が仙仙城を構えた「仙台はじまりの地」とも言える青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。この場所に本施設が立地することにより、エリアとして国内外から多くの人を惹きつける求心力となり、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、都心部にも隣接し、大きな経済波及効果を創出できるものと考えております。 震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。沿岸部と中心部の2拠点体制を活かしつつ、文化芸術と連携した防災力向上の取組などを検討し、次の災害に備え、乗り越える文化の醸成に努めてまいります。 また、仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。 令和2年に行ったホールの需要想定調査において、十分な需要が見込めることを確認しております。	令和8年 1月16日
23	・宮城県県民会館が2000人規模の劇場型ホールになる計画であることを前提にすると、「舞台は可動式でなく、サラウンド型固定とすべき」で「客席は1500人以下とすべき」 ・宮城県民会館が、舞台芸術にも適した劇場型のホールになるのであれば、仙台市の新ホールはクラシックに特化したサラウンド型単機能のホールとして、建設費の低減を図るべき ・藤本氏は説明会中に「講演」という用途にも言及していたが、音響の豊かな音楽ホールで、残響が多いと聞き取りにくくなる講演を実施するのか。どうしても2000人を入れたい講演ならサンブラザもあり、新ホールが対応する必要はない。 ・吹奏楽や合唱コンクールにも言及していたが、それらも含め、2000人規模のコンサートは、新宮城県民会館で開けばよいのであり、2つは絶対に必要ない。仙台で最高レベルのクラシック音楽が演奏されるコンサートの集客は、1000人以上1500人未満がボリュームゾーンだ。 ・今後、市民会館、県民会館、電力ホールがなくなってしまうと、仙台市内には、使い勝手の良い1000～1500人規模のホールがイズミティ大と川内萩ホールのみとなってしまいます。いずれも、音響のよいホールとは言いにくいことから1500人規模の音楽ホールが望ましい。	東日本大震災後、生の音の音響性能に優れた2,000席規模のホールの整備について、1万人近くの市民の皆様からの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。 また、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」「2,000席規模で十分な舞台機能を有するホールがないことから、仙台で開催できない大会や公演がある」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。 こうした需要面の視点に加え、本複合施設は仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しており、多くの市民の皆様にも多様な文化芸術の創造や体験の機会を提供するため、コンサートホール形式とプロセニウム劇場機能に転換可能なホールとしたものでございます。 世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと生の音源に対する優れた音響性能を持つホールを実現することで、新県民会館との役割分担をしながら、仙台の文化芸術の発展を目指してまいります。 なお、「講演」での利用につきましても、青葉山エリアでは本施設の整備予定地を含めエリア一帯を活用した大規模学会が開催されてきた実績があることから、同等規模の学会の開催時には本施設も会場の一部として活用されることも想定しております。講演のみならず多様な舞台芸術に対応する転換型ホールとして、残響時間は可変とする想定であり、音響設計会社の専門的知見のもと各館の利用目的に対し適切な音響環境を実現してまいります。	令和8年 1月16日
24	・複合施設整備に向けた財源調達内訳を明示するほか、整備費の具体的な支払いのタイミングと支出額、市全体の歳出に占める割合を示してほしい。 ・経済波及効果を年間47億円とした試算の具体的な内訳と裏付けを公開してほしい。 ・藤本壮介氏の設計が持つ独自性や未来への価値を、市が発注者として自信を持って擁護し、声なき応援者の期待を裏切らないよう、引き続き強いリーダーシップを発揮してほしい。 ・「多くの市民が利用する想定」とのことだが、その具体的な根拠となる年間利用者数の目標や、市民全体(約109万人)のうち何割の市民が何らかの形で施設を利用できる見込みか示してほしい。 ・施設のポテンシャルを最大限に引き出すための運用体制や指定管理者の業務仕様を検討し、指定管理者の評価基準を明確に示してほしい。 ・市民が多様な方法で施設を使おうとする斬新なアイデアを、形式的なルールで妨げることのないよう、設計者と発注者が一体となって柔軟性と創造性のある施設運用のあり方を検討してほしい。 ・せっかく実現するのであれば、消極的で無難な施設ではなく、「仙台市やるな！すごいな！」と内外から羨望の目で見られるような、未来を象徴する施設になることを心から願っている。市民が自信をもって計画を応援できるよう、透明性のある情報開示をお願いしたい。完成を楽しみにしている。	施設整備費については、関連経費を含めた額や財源について精査を進め、整備の各段階においてお示ししてまいります。また、市全体の財政状況につきましては、年2回、中期財政見通しをお示しするなどの取組を行っているところでございます。 経済波及効果については、「施設の運営や事業展開により誘発される生産額とそれに伴う波及効果」で21億円強、「来場者の消費により誘発される生産額とそれに伴う波及効果」で約25億円強の合計で約47億円と推計しました。 前者については、他都市の類似施設を参考に運営・事業費を約18億円/年と想定し、宮城県産業連関表を用いて県内における効果額を算定しております。後者については、大ホール・小ホール・震災メモリアル拠点といった諸室ごとに想定来場者数を試算し、利用目的別の1人当たり消費額を積和したうえで、前者と同じく宮城県産業連関表を用いて県内における効果額を算定しております。これにとどまらない効果を目指すとともに、教育や福祉、防災など、仙台のまちづくりの様々な面において大きな社会的効果を発揮するものと考えており、開館後も含め、こうした経済的効果・社会的効果の可視化に努めてまいります。 来場者数見込は合計で約54万人であり、オーケストラ鑑賞会や災害文化の展示の見学などで市内全域の児童生徒が来場することを見込むほか、障害のある方、高齢の方など、あらゆる人に文化体験の機会を提供するプログラムを展開するなど、多くの市民の方々が来場する施設運営を目指してまいります。 本施設は、文化芸術と災害文化が交わり仙台ならではの文化を創造・発信する、世界に類のない施設を目指しております。その運営に際しては、市との密接な対話・連携のもと、施設単体にとどまらない面的な広がりや政策と連動した事業展開が求められるものと考えております。こうした視点を踏まえ、適切な指定管理者を選定するとともに、業務の仕様、評価指標の検討を進めてまいります。杜の都の新たなシンボルとして国内外から多くの人を惹きつけ、仙台のまちをより豊かにする拠点とすべく、整備の必要性やこの施設がもたらす価値についてより一層の情報発信に努めながら、着実に整備を進めてまいりたいと存じます。	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
25	・ホールが多目的化はどうしても常に短し襪に長しになってしまい、音響的に良い影響を与えないと思う。出来たら純粋な音楽ホールとして世界に自慢できるホールを作ってほしい。 ・音楽ホールにパイプオルガンは必須。近現代の大規模な管弦楽曲ではパイプオルガンが使われる曲が多数ある。何十年か越しのホールが出来るとあれば、完全なホールを創ってほしい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。 既存の施設の中にも、音響性能が高く評価される転換型ホールが全国に多数ございます。本施設では、世界的な実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、音響反射板の重量をはじめとして、音響性能確保のために考慮すべき点を取りまとめた「音響ガイドライン」を定めております。設計プロセスにも上記音響設計会社や劇場に関する多数の専門家が参画しており、その知見を十分に生かしながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
26	音楽ホールは不要。何で音楽ホールが必要なのか伝わってこない。インスタグラムにやる気が感じられない。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。	令和8年 1月16日
27	・施設整備に係る費用の財源を確保できないのであれば整備計画を凍結すべき。 ・宮城県のローコストアリーナ建設構想にのっかり、収容1万人規模の複合施設内に音楽型重視ホールを併設するように計画を見直したほうが良いのではないのか。 ・マルシェやワークショップは並行して大改造する西公園内でやれば良いのではないのか。マルシェやワークショップは不要ではないか。災害文化の展示も、震災遺構の荒浜小やせんだい3.11メモリアル交流館があり、過剰整備だと思う。音楽ホールに必要なパーツに特化した再デザインが必要。 ・ボーリング調査結果に係る調査報告書を公開しないのはなぜか。整備予定地の川内地区は水はけの悪い場所だが、そんな土地に免震構造の建物を作って地盤沈下等のリスクはないか。 ・市民説明会の質疑応答で発言した人には回答して、オンラインでの質問者には回答しないのは市民サービスの差別に繋がるのではないのか。	「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(劇場法)」におきましては、「劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより『新しい広場』として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。」という考え方が示されております。 多様な目的を持った人々の出会いと交流を促進する吹き抜け空間や、マルシェやワークショップなどの取り組みは、上記の考え方を基とする本施設において、重要な役割を担うものと考えております。 また、震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点を連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設として、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら、整備を進めてまいります。 なお、宮城県が検討を進めている「ローコストアリーナ」につきましては、アーティストの公演や大規模イベント等を担う施設として、本施設とは異なる役割を果たすものと認識しております。本施設と県の施設がそれぞれの特性を生かしながら、相互に補完し合い、仙台圏全体のにぎわい創出や交流人口の拡大につなげることが重要だと考えており、合築による計画見直しは想定しておりませんが、宮城県とは今後とも連携を図ってまいります。 令和5年度に実施したボーリング調査報告書につきましては、技術的な情報が多いため基本計画には添付しなかったところでございます。 地盤の硬軟や締り具合の程度は、土質ボーリング柱状図(標準貫入試験)のN値で判定されます。N値が低い場合は、地盤が軟らかく不安定であることを示し、補強工事や地盤改良が必要になる可能性があります。逆にN値が高い場合は地盤が安定しており、建物の重量をしっかりと支えられることを示します。本事業地の西側では地下3m程度でN値が50を超えており、大型建物の建造に耐えられる非常に堅固な地盤と判断されました。 ご指摘のとおり、当該地区は地下水位が高い地区ですが、地下水は堅固な地盤より高い位置で観測されておりますので将来の地盤沈下等のリスクは生じないものと判断しております。 市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきまして、このように市の考え方を回答させていただくことといたしました。	令和8年 1月16日
28	一番気になっているのは運営体制である。 災害文化は、さまざまな地域における災害によって対策や考慮しなければならぬ点が常にアップデートされていくという実感がある。「常に対話し続けることができる施設」ということが重要であり、「ルールやマニュアルが本当にこれで良いのか?」ということを常に考え直し、アップデートしていくという姿勢が必要だと思う。その良い例として、秋田市文化創造館の取り組みに注目している。 市民と共に公共施設はどうあるべきかを考える姿勢を持ち、次に必ず来る災害に対するスキルを市民とともに作り上げていけると良い。凝り固まった施設ではなく、柔軟にどのようなカタチにも変化していける施設になることを望む。	災害文化の創造を行うためには、災害情報の更新はもとより、多様な方々との対話による気づきや学びを通じ、取り組み自体も不断に更新していくことが重要であると考えています。 地域の多様な人材と協働した事業展開を図るとともに、柔軟な施設運営のもと市民の皆様のアイディアから生まれる多様なプロジェクトを後押ししていただけるよう、他都市の先進事例を参考にするとともに、運営のあり方の検討の段階から市民の皆様にも参画いただくような取り組みを、今後とも行ってまいります。	令和8年 1月16日
29	吹奏楽関係者にとって待望の音楽ホールだ。コンクールを開催する際の楽器搬出入の配慮がなされていること、コンクール特有の演奏者と楽器の動線がしっかり確保されていることは素晴らしい。仙台に世界に誇れる音楽ホールが完成し利用できるようになることを念願している。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
30	ホール建設に賛成。		
31	2000席規模で良い音響設備を備えるホールがないことが仙台市の文化活動の発展、音楽文化の醸成にブレーキをかけている。国内外の一流演奏家の演奏機会の増加や各種コンクール・コンテスト開催のため、宮城県内外から広く集客するためにも、十分なキャパシティのホールが必要で、ぜひ整備を実現してほしい。		

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年5月31日までに寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
32	東北各地に素晴らしいホールがある中で、政令指定都市の仙台にだけないのをとても寂しく感じている。胸を張って楽都仙台と言えるためにも計画を推進し、早期に立派なホールができることを願っている。		
33	市民説明会ではクラシック音楽を愛好している方からパイプオルガンの要望や1500席が良いとの意見があったが、こだわりの極致かと思う。自身としては、エスカレーターの設置と、女性用のトイレを男性の10倍くらい多く設置することを望む。意外と千客万来かも。弱者救済宜しく願いたい。	施設各所にエスカレーター・エレベーターを設けるとともに、ホール来場者用のトイレは、女性用が特に混雑することを前提に十分な数を備えるなど、あらゆる人が気軽に訪れ、快適に利用できる施設を目指してまいります。	令和8年 1月16日
34	自分自身が吹奏楽をしていることから、演奏できる場所が増えるのはとても嬉しく思うし、ぜひ完成させてほしい。また、震災が起こった際の避難場所として活躍してほしい。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。 なお、本施設は、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、免震構造の採用によって高い安全性が期待できる施設であり、帰宅困難者の一時的な受け入れなどの役割を果たせるものと考えております。また、平常時においては、震災の経験と教訓に基づく災害文化の創造を通して、災害に備え、災害から立ち上がる力を広める施設を目指してまいります。	令和8年 1月16日
35	日常を忘れて心穏やかに過ごせるような、大きくてキレイな施設になってほしい。また、演奏で人が集まり、耳を傾け、交流できる場をつくってほしい。	市民の皆様が日常的に集い、交流することのできる施設を目指し、着実に整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
36	・県内のホールは声楽や演劇向けに作ったようなホールばかりであるため、吹奏楽や管弦楽、オーケストラにとって音響の良いホールが必要。市民のみならず、県内や東北の各地からも愛されて利用されるホールにしてほしい。 ・駐車場の確保、楽器荷下ろしなどがスムーズに行えるスペース、日立システムズホールのパフォーマンス広場のような場所も設けてほしい。また使いやすい利用料金の設定にしてほしい。	本施設の整備にあたっては、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、優れた音響性能となるホールとなるよう進めているところであり、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指してまいります。 日立システムズホール仙台のパフォーマンス広場とは異なる空間とはなりますが、誰もが気軽に訪れ様々な催事やプロジェクトなどが展開される「交流イベントロビー」を設ける計画でございます。駐車場につきましては、敷地の広さや地下鉄駅隣接であることも踏まえ一般用駐車場の駐車台数は90台となっておりますが、楽器荷下ろしの利便性などには十分に考慮してまいります。使用料の設定につきましては経営的視点とともに、多くの市民の皆様にご利用いただき、本市の文化芸術環境を向上させるという視点も持ち、検討を行ってまいります。	令和8年 1月16日
37	整備費が高すぎる。建設に反対。市民からの意見に個別回答をしないのであれば、どんな意見があったのかまとめたうえで、公に回答すべき。市民に対して不誠実だ。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
38	複合施設は不要。複合施設が必要なのか、市は市民に対する説明を怠っている。市民から質問を募って、回答をホームページに公表することもできるはず。市他の施策では行われていることが複合施設ではなぜしないのか。市民の意見に真摯に対応してほしい。	市民の皆様からのご意見につきましては、基本構想・基本計画それぞれの策定過程においてパブリックコメントを実施してまいりました。今後につきましても、ご意見を伺う多様な機会を設けてまいりたいと考えております。市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきましては、随時、市の考え方を回答するとともに、整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。	令和8年 1月16日
39	40年来の悲願であった新ホールが建設されることになり、嬉しく思う。世の中では2000人規模の新ホールが完成し、著名な演奏家のコンサートが仙台を素通りしていってしまうような状況を悔しく思う。ここまで進んで凍結してしまった場合、今後復活することは不可能であろう。 このホールは子供たちにとっても欠かせないものになる。吹奏楽も合唱も全国大会誘致が子どもたちの大きな刺激になり、技術が向上するし心も育つ。長期的視点に立って考えた場合、仙台という街づくりにも豊かな人間育成にも大きく寄与できる場所になると確信している。中断させずに前に進めてほしい。	「楽都仙台」としての本市の文化芸術をさらに発展させるとともに、未来を担う子どもたちや若い世代の育成に貢献し、本市の魅力を一層高めるまちづくり・ひとづくりの拠点を目指し、整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
40	ホールが出来ることは喜ばしいが、費用がかかりすぎである。音響には力を入れてほしいが、外観は四角なビル型でも構わない。奇抜なデザインはいらない。建設後も維持費や修繕費が余計にかからないような建物にしてほしい。	本施設は、文化芸術と災害文化の複合施設として、多様な目的を持った人々や活動が交わり、共鳴する中から仙台ならではの新たな文化が創造されていく拠点を目指しており、そうした理念を実現する空間としてこのような設計案となっております。また、施設の外観については、屋根を分節することで、周辺への圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図られるようにしております。利用者にとっての使いやすさや維持管理コスト、メンテナンス性も十分考慮しながら、設計を進めてまいります。	令和8年 1月16日
41	派手な屋根のデザインは不要であり、音楽ホールに特化した屋根にするといくらぐらい削減になるのか。また、建設費用は仙台市の税金なのか、市民の使用は無料で市外は有料なのか。税金も徴収し、市民からも入場料等を徴収するのであれば二重徴収になると思う。	屋根については、周辺への圧迫感を低減し青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽、屋内と屋外が連続する開放的な環境の確保といった点も考慮しております。 特定の部分に絞って費用を比較することは難しいですが、今後実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法(ECI方式)を導入するなど、建築全体のコスト縮減・品質向上に取り組みたいと考えております。 また、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。 施設の使用料については、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割、受益者負担の考え方や周辺施設とのバランスなどを総合的に勘案し、今後具体的な検討を行ってまいります。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
42	今回の施設建設に反対している立場ではなく、建設するのであればより良い施設の完成を願う立場として、何点が意見したい。 1. 建築外観デザインについて コンペ当時の統一感ある外観デザインが失われ、現在の案は無理にコンペ当時の半分のデザインを残したイメージに感じる。例えば屋外階段が古い公民館の屋外階段のように感じられる。市民の評価、世界的建築家の建築作品としての良い評価を得ることができるのか疑問である。 一案として、バースで表現されている音楽ホール棟の外観により強いデザイン性を持たせる一方、屋外の「ひらひら」の部分も含め、交流イベントホール棟のデザインをシンプルなものに変更してはどうか。再設計の時間やお金がかかるが、最終的な建築コストを抑える方向に考えていけば有効なのではないか。「ひらひら」部分は構造や施工の難しさに比べ、完成後は使いづらいという意見が多くなるものと想像する。全体的にシンプルで統一性あるデザインに見直すことが良い。 2. 1Fスペースの計画について 交流イベントロビーは、音楽ホール利用者の待機場所になる可能性があるため、両者の動線と空間の融合性を改めて検討すべきである。 また、レストランは眺望を活かす観点から2F配置が望ましく、トイレや工芸工房も交流イベントロビーの最大限の活用を考えるとこの場所でないと感じる。 3. 大ホールについて 可動式ではなく固定舞台による音響最重視の設計が望ましい。後方約200席を囲むサラウンド型配置がどのような効果を生むのか有効性を感じないし、若いアーティストのライブでは音響機材や演出装置が優先になり後方席が使われない可能性がある。固定式とすることで余分なバックヤードを減らし、建設コスト削減にもつながる。 4. 地下1Fについて スロープからの雨水流入対策、機材搬入トラックの切り返し、ガルウイング車に対する天井の高さなどは大丈夫か？ 可動式舞台を廃止すれば客席収納スペースも不要となる。震災関連施設であるのに災害時の備蓄庫のような場所が見つからないので、可動式をやめて余ったスペースを備蓄庫に当てれば良いのではないか。 5. 1Fについて 可動式客席をなくすことで1Fのバス乗降スペースに余裕がでる備蓄庫も設けられる。レストランや工作室は2F以上へ移し、1F交流スペースとホール関連機能の再構築が必要である。もぎりやホール側のトイレ計画がこれで良いのか気になる。 6. 1F～4Fについて 市民利用スペースに比べ、運営側スペースが過大に感じる。吹き抜けと使用できるスペースのバランスも気になる。上下階のつながりは大切だと思うが、上下の気配を感じる空間が果たして良いのか。また、コンペ案からレイアウトが変化している現状を踏まえ、デザイン全体を再構築し、コストの削減、シンプルで素晴らしい建築デザインを望む。 7. 市民ワークショップについて 市民ワークショップの意義は認めるが、今年度のワークショップは「何をやりたい？」の繰り返しで終了した印象。これを施設完成まで実施し続けるのが良いのか疑問である。 8. サテライトオフィスについて 素晴らしい考えたと思うが、実際に設計業務をするオフィスでもあり、市民交流スペースとしての活用には工夫が必要。月に1回自由に集まれる日を設けるなど、イベント化するのが良いのではないか。オフィス内をパーテーションで仕切ることも必要。	1.建築外観デザインについて 公募プロポーザル以降の設計プロセスにおいて、外観のデザイン性のみではなく、設計コンセプトに基づく内部空間の機能性や連続性、諸室に必要な機能、利用想定に基づく相互の配置、コスト、構造や設備といった要素について総合的に検討を進めてきた結果、現在お示ししている設計中間案となったものでございます。 屋根が多層的につながる外観については、屋根を分節し、段階的に設けることで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。全体的に統一性があるデザインという視点は重要であると考えており、という様々な視点を想定しながら、総合的に検討を進めております。 2.1Fスペースの計画について 1階交流イベントロビーは、ホール来場者に限らず、誰もが気軽に立ち寄り、居場所を見つけられる「開かれた広場空間」となることを目指しています。一方で大ホールで大規模公演が実施される場合等は、両者の動線が交錯し混乱を招かないよう、動線計画や運用面での工夫を行ってまいります。 また、レストランや諸室の配置については、利便性等を考慮して現在の設計案となったものであり、眺望を生かしたりロビー空間の魅力を高める方策については今後とも検討してまいります。 3.大ホールについて 本施設の大ホールは、「コンサートホール形式」と「プロセニウム劇場形式」に転換する多機能ホールとなります。 クラシック音楽等の公演においては、生の音が適切に反射するホール形状となっていることが重要となります。「コンサートホール形式」においては、可動式の音響反射板によってそのような空間を実現します。 また、音楽鑑賞においては、視覚的な要素や演奏者・聴衆の一体感といったことも素晴らしい音楽体験を形づくる重要な要素となります。舞台を介して観客同士が向き合い、演奏者を含むホール全体での一体感を感じたり、多様な跳めと響きを楽しんだりすることができる空間が「楽都仙台」を象徴する本施設に相応しいという考えから、「コンサートホール形式」においてサラウンド型を導入したものでございます。 一方で、ご指摘いただいたような音響機材をふんだんに用いるポップスや演劇などの公演では、側舞台空間や吊物バトンなどの舞台機構が必要となり、専用のコンサートホールで開催することは困難です。こうした多様な演出に対応するのが「プロセニウム劇場形式」であり、多くの市民の皆様が鑑賞に訪れることができる・舞台に立つことができる施設とするため、この2つの形式に転換可能なホールとしたところでございます。 4.地下1Fについて 地下階への雨水流入については、適切な雨水排水を計画してまいります。また、搬入車両やガルウイング車への対応につきましても、車両の動線や積荷を想定して寸法を確保しながら設計を行っております。 本施設は、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、帰宅困難者の一時的な受け入れなどのために必要となる物資の備蓄庫を1階に設けております。 5.1Fについて ホールの転換機構や諸室配置についての考え方は前述のとおりです。ホール内のトイレの基盤については、他都市の近年の施設の事例を参照し十分な数を計画しております。もぎりやトイレの並び列なども含めた動線計画については、より安全で円滑なものとなるよう引き続き検討してまいります。 6.1F～4Fについて 吹き抜け空間を含む施設全体のデザインの考え方につきましては前述のとおりです。運営エリアについては、安全で円滑な施設運営や魅力的な事業実施、市民の皆様への活動支援などのための職員の配置を想定していることに加え、レジデントオーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団の事務所や備品・備蓄倉庫なども含んでおり、必要な機能を整理したうえで現在の設計案となっております。 7.市民ワークショップについて 令和7年度の市民ワークショップは、多くの市民の皆様が本施設への関心を持っていただくとともに、多様なご意見・アイデアを施設づくりに生かすため、基本設計の一環として実施しました。今後とも、このワークショップの成果を生かしつつ、市民の皆様とともにこの施設のあり方をさらに幅広い視点から考えていけるような対話の場づくりを検討してまいります。 8.サテライトオフィスについて サテライトオフィスについては、いただいた意見を設計事務所と共有し、あり方を検討してまいります。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
43	災害時には衣食住だけではなく心を癒し希望を与える文化の力は必要で、仙台は身をもって体験した。この経験を世界中の多くの人に知ってもらい災害に備え考えて行くための施設となってほしい。特に子どもたちが災害を学んだり、プロと同じホールのステージで発表できる経験を多く作ってほしい。	本施設は、東日本大震災の伝承のみならず、震災からの復興過程で認識された文化芸術の力も生かしながら、これからの災害に備える知恵や術、災害が起きたときに立ち上がる災害文化の力を育み、国内外に広げていくことを目指しております。また、将来を担う子どもや若い人に多様な文化芸術体験や災害の学びの機会を提供することを重視してまいります。市民とプロがともに活躍する施設となり、多くの市民の方に最高水準の舞台に立つ機会を提供することで、個々人の創造性、ひいてはまち全体の創造性を高めてまいりたいと考えております。	令和8年 2月12日
44	「本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。」と市は回答しているが、たった1万人のために1,000億の無駄な金を使うのはやめてほしい。少なくとも1万人以上の市民は反対しているし、地元経済界といってもほんの一握りで、多くの事業者は大反対である。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。交流人口・関係人口拡大による経済的価値はもとより、教育や福祉、都市ブランドの向上といった多様な社会的価値を生み出し、実際に施設に足を運ぶ人以外にも含めたあらゆる市民の皆様にメリットを感じていただける施設を目指し、整備を進めてまいりたいと考えております。	令和8年 2月12日
45	「(音楽ホールの)整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。」とあるが、今回、市の考えをアリバイ程度でホームページにさりげなく掲載しただけで、アクセス件数が多いと思われる市のトップページ等には、一切掲載のお知らせはない。インスタでも発信もない。市が積極的に広報しようという本気度は全く伝わってこない。	情報発信については、より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、発信手法やタイミングを含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年 2月12日
46	■スタジオ・練習室に吊りバトンを これまで長年ワークショップやアウトリーチを、市民センターの会議室や体育館、学校の教室など、あらゆる施設で行ってきた。天井にせめて1本のバトンがあればあれこれできたのに、と思うことが多くある。躯体からある程度の荷重に耐える吊りバトンがあると、使い勝手や表現の可能性を格段に高める。 照明スポットライトや音響スピーカーだけでなく、袖幕、カーテン、看板、装飾、例えばミラーボールやくす玉など、様々な効果を試すことができる。 1本のバトンがあれば、それを頼りにバトンを仮設して、欲しい天井位置に吊りたいものを仕掛けることもできる。逆に、バトンが無ければ天井から吊る作業は非常に困難となる。また、建設前ならともかく、後付けすることも現実的に無理だ。 【大練習室】 ・西側(収納庫の反対側)の壁から6～7m離れた天井位置 ・東西の壁と並行(南北のバトン) ・単管状の固定(昇降・可動ナシ) ・西壁からの距離は大練習室の天井高5mを基準として+1～2m ・天井面から単管の芯までH15～20cm程度 ・躯体から下り荷重に耐えるのが理想(吊荷重をバトンに表記) ・できれば東側と中央にも並行のバトン ・色は素のままでも構わない(天井と同色でも何色でもかまわない) ・単管より細くても良いが壊れないこと(中間に支柱が入っても良い) 【ワークショップスタジオ】 四隅の柱につながる梁のような、東西南北に4本わたるのが理想 ・単管状の固定(昇降・可動ナシ) ・天井面から単管の芯までH15～20cm程度 ・躯体から下り、または柱から出て、荷重に耐えるのが理想(吊荷重をバトンに表記) ・色は素のままでも構わない(天井と同色でも何色でもかまわない) ・単管より細くても良いが壊れないこと(中間に支柱が入っても良い) 【その他のスペース】 多目的交流スペース、市民活動スペースなどにも吊りバトンがあるとよい。また、企画・常設展示室やアーカイブライブラリーには、バナーなど自在に吊れる(メッシュ状?)の天井が良いと思う。 ■スタジオ・練習室は二方向避難 その場で出来た作品やプログラムの、有料での試演会などが出来るよう興行場法や消防法に則り二方向避難を確保していただきたい	■吊りバトンの設備について ワークショップスタジオなど各諸室の吊りバトン等の設備については、いただいたご意見を参考に、実施設計の中で詳細を検討してまいります。 ■各所室からの避難経路について 各諸室からの避難経路については、消防局と協議のうえ適切に設定してまいります。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
	メモリアル拠点の機能や特色はどこから生まれるべきなのか、どういう担当部署・部門が必要なのか、音楽ホールに対して「災害文化」のイメージの弱さを懸念している。 「基本計画」に示されている「事業実施例」が、中心部震災メモリアル拠点の事業イメージと十分に連動しているだろうか。 仙台市の「強み」として ・東日本大震災から立ち上がってきた経験 ・市民協働、男女共同、防災教育、社会教育、産学連携 ・防災環境都市としての国際的なプレゼンス ・文化芸術・スポーツ(プロ/アマ) が挙げられますが「災害文化」に反映されていないのではないかと ワークショップ・アウトリーチは「文化芸術」であり、メモリアル拠点がやるべきモノとは別モノ、と捉えられているのではないかと。 実は「ワークショップ・アウトリーチ」の要素や本質はメモリアル交流館10年の運営や事業に潜んでおり、当初から意図的に実施されています(「メモリアルコンサート」や実演や朗読などの協力事業も含め)物語として伝える「VOICE」や、荒浜磯獅子踊りなどはその果実だ。 これらがメモリアル側で語られず音楽ホール側に回収されてしまうと、内容が音楽コンテンツに絡み取られ音楽に縛られ、持っていかれ、引っ張られ、なかなか自由に展開できないのではないかと。 街なかの「メモリアル拠点」では、15年間の支援の経験や実績(メモ館事業だけでなく「文化庁派遣事業」など)を踏まえて、社会の益となる動きを研究し、応用し、発信するアートセンターやラボの機能に発展、つまりワークショップ・アウトリーチをメモリアル拠点の側に寄せコンテンツの中心にアートセンターやラボといった「機能」が見えなければ音楽ホールにどんどん吸い寄せられて、運営に活かされず、しまいに消えてしまふんじゃないかととても懸念している。 ・音楽ホールはその存在自体に求心力がある。それに対して「ワークショップ・アウトリーチ」はメモリアル拠点のコンテンツである！」 「災害文化芸術」と位置づけた方がスッキリとし、現実的なイメージが動き出すのではないかと。 偶然なのか、地下鉄東西線沿線にメモ館、10-BOX、東北大災害研があり、一筆書きでつながる相乗効果に期待したい。 かつて岡本太郎が丹下健三の大屋根をぶち抜いて建築と芸術が戦っているような、ギャップを感じるメッセージのような、「実物を見なければ損だ」と思われるような求心力 被災地という場に対峙する求心力は、必然的に芸術性を帯びるのではないかと	■災害文化事業について せんだい3.11メモリアル交流館は、東部沿岸地域の玄関口として、被災地域の文化や、震災の経験と教訓の継承、発信に取り組む拠点として地域と連携し様々な事業を展開してきました。 「基本計画」では事業実施例のイメージと記しておりますが、本施設は多様な社会的価値の創出を通じて将来世代を含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指しており、メモリアル交流館における事業実施の成果や事業の立案、展開手法も参考としながら、引き続き検討を進めてまいります。 災害文化事業の実施にあたっては、多様な主体の参加や交流によるワークショップやプログラムを通じて、市民の皆様からのアイデアを実践する機会を多く確保しながら、取り組みを進めます。 いただいたご意見を参考に、引き続き検討を進めてまいります。	
	【クワイエットルーム】 ジェームズ・タレルのブルー・プラネット・スカイ(金沢21世紀美術館)等の作品やマルクス・キーンソンのインタラクティブアートのイメージですがクワイエットルームで同時刻の仙台の海が見える身体的体験 「青葉山に行けば海が見えるらしいよ!」「マジで?」とささやかれ、いつ行っても風景が異なり、子どもから大人まで、無言で見ていたくなるライブ感、しかも「あの海が・・・」という思いに恒久的に向き合う求心力。ここは妥協すべきではない。	■クワイエットスペースについて クワイエットスペースは、いつも変わらずにある空間として常設し、心を落ち着け、静かに想いを巡らすことができる場として検討しております。いただいたご意見を参考に引き続き、詳細を検討してまいります。	
	地下鉄東西線が開業して10年、目標乗客数を達成し、黒字が見込まれるというニュースは、市民のだれもが喜ぶ反面、ホッと安堵している人も少なくないのではないかと。開業前の反対意見は相当な圧力を感じた。実物を見て実感してみても初めて、次第に反対意見も収束したように感じる。 それほど実物の無い中での議論は、個々人の思いを見比べることができず、ネガティブに偏りがちなんだと、改めて感じている。 ただし、地下鉄というインフラは、実際に利用できて数字で価値を表わせるが、複合施設は数字だけでは表せない価値を持っているはずだ。 数字だけではなく、数字を超えた表現や創作や想像の象徴として、見え、身体的に体感できる実物に求心力を持たせるために、妥協はすべきでない。その求心力は、メモリアル拠点の「災害文化・芸術」を引き寄せワークショップ・アウトリーチ振興の源泉になるのではないかと。 市民に益をもたらし続け、10年後の市民が納得する施設になってほしいと心から願う。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとつづくりに必要な施設であると考えております。交流人口・関係人口拡大による経済的価値はもとより、教育や福祉、都市ブランドの向上といった多様な社会的価値を生み出し、市民やまちに貢献する施設を目指しております。そうした効果の可視化にも努め、多くの方に価値を実感いただける施設としてまいりたいと考えています。	
47	仙台は有名なコンサートが飛ばされたり、友人からは公演がしたくても、いつもホールの予約が埋まっていると聞いている。東京のホールのようにプロが立つ舞台で子どもたちが演奏できることは、とても良い経験になる。一緒に災害を学べることも仙台だからこそで、青葉山が賑わうことになる。 建築費が高くなっているとのことだが、何もかもが値上がりしている現在、ある程度は仕方ない。 それよりも、ホールが出来ることによって、そこが観光場所の一つとなり、仙台が賑わい、元気になって、文化を深め、子どもたちへの良い効果も期待できるはずだ。完成を楽しみにしている。	本施設は、乳幼児を含む子どもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しております。また、市民とプロがともに活躍する施設となり、多くの市民の方が最高水準の舞台に立つことで、個々人の創造性、ひいてはまち全体の創造性を高めてまいりたいと考えております。このように、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらす、仙台の新たなランドマークとして国内外から多くの人を惹きつける拠点となることを目指し、着実に整備を進めてまいります。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
48	県民会館も新しくなるので、青葉山の施設は必要ない。市民が使わない施設を増やさず、補助金などに充ててほしい。青葉山の自然を破壊することにもなると思うため、建設反対。建設場所がさくら野跡地であれば、利用しやすい。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。 本施設が立地する青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。本施設の整備を通じて、このエリアに国内外から多くの人を惹きつける求心力をもたらし、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、施設整備にあたっては、青葉山エリアの景観と調和した施設外観にするとともに、周辺と調和した緑化、自然環境への配慮に努めます。 なお、さくらの跡地の敷地面積は現在の整備予定地の面積の1/3未満であり、本施設の立地場所としては広さが不足しております。	令和8年 2月12日
49	2000人が入るホール、とても楽しみにしている。今は山形に先を越されてしまい、たくさんのオペラや演奏会が山形で開催されている。関東圏・東北の大きな演奏会やコンクールは、仙台で開催してほしい。また、350席の小ホールも使い勝手が良いサイズで、完成が待ち遠しいが、ピアノ発表会など小規模の催事には、350席も大きく感じるため、さらに小さい100人くらいのホールがあると、たくさんの方が利用すると思う。	本施設では、これまで仙台で開催できなかった大編成のオーケストラ公演、オペラ・バレエなど総合舞台芸術の本格的な公演、文化芸術の大規模な大会などが開催されることを見込んでおります。 市民の皆様が発表の場としては、リハーサル室を100～200名程度の発表会でも活用できる空間とし、控室やラウンジも設けるとともに、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオを設けます。	令和8年 2月12日
50	音楽や踊りや演劇の場所は他にもたくさんある。このご時世にまだ増やそうとする意味が分からない。 先日誘われて歌のコンサートに行ったが、無料とは言え、なぜ市税が素人の団体にまで使われるのか遺憾である。物価高の世の中、一部の人達ではなく市民全員のためになることに財源を使って頂きたい。美術館の方がまだ有意義である。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、整備の検討を進めてきたところでございます。 本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かな暮らしを、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。	令和8年 2月12日
51	新しい音楽ホールが出来るととても楽しみにしている。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。	令和8年 2月12日
52	整備予定地は、東北大や国際センターでのイベントが開催される際に渋滞が発生している。渋滞が発生しにくい場所に整備することを検討していただきたい。	伊達政宗公が仙台城を構えた「仙台はじまりの地」とも言える青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。この場所に本施設が立地することにより、エリア全体に国内外から多くの人を惹きつける求心力をもたらし、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、都心部にも隣接し、大きな経済波及効果を創出できるものと考えております。 青葉山エリアでは、イベント時などにスポーツ的な交通渋滞が発生することは認識しております。エリア全体の総合的な交通環境のあり方について、引き続き検討してまいります。	令和8年 2月12日
53	これだけ資材高騰していて当初の予算より大幅にあがる施設は不要である。税金の無駄遣いが酷い。 宮城県でも2000人の施設をつくるのに、張り合って仙台市が作る必要はない。そんな金があるなら、中学生の給食費を無料すとか、そっちが先だ。本当にいらない。必要ない。税金の無駄遣いが許せない。どうしてもやるなら、是非を問う選挙をやってからやってほしい。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ており、これまでパブリックコメントをはじめとして様々な形で市民のご意見を伺いながら、整備に向けた検討を進めてまいりました。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かな暮らしを、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 2月12日
54	仙台市の音楽ホールを年間10日ほど利用している。本当に必要なのは、ハトナホール規模のホールである。客席数が多いほど利用料は高くなる。市民の需要に合ったホールを作してほしい。	仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。 一方で、約350席の小ホール、100～200名程度の発表会にも対応したリハーサル室、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオなども設けることとしており、市民の皆様の多様な活動を支える拠点となることを目指しております。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
55	是非パイプオルガンを設置していただきたい。更に、パイプオルガン設置場所・空間は、パイプオルガンと仙台フィルハーモニー楽団も共演できる環境での構築をお願いしたい。現在、仙台市を含め宮城県内には、パイプオルガンと交響楽団が共演できる施設がない。本共演は東京まで聴きに行く必要があり、是非仙台でも聴きたい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。	令和8年 2月12日
56	この建物に必要性を感じられない。費用も当初の予定より約300億円も増えている状況でも進める事業なのか。約200億、約100億、と段階的に費用があがり、現時点で約650億円、今後まだまだ増える可能性が容易に予想できる。今後の仙台市のことを考えたら、こんな建物に現時点で約650億円かけるより、他に予算をまわす事があるのではないかと定禅寺通りの車線減少工事もだが、計画したから実行する！ご理解ください！ではなく、計画変更や中止なども含め、もう少し市民の意見を聞いてほしい。今は、この計画で得をする一部の賛成派だけの意見で進めていないか？ そもそも、震災後15年近く経って「震災メモリアル」と名づける施設を作る意味がわからない。施設が完成すれば震災関連の展示や何かもするののかも知れませんが、これは、音楽ホールを作るために「震災」と無理矢理結びつけただけではないか？ 私は仙台市にこんな多額の費用をかけた施設は不要だと考える。断固反対だ。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からいただいた提言を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと、沿岸部の拠点を先行して整備してまいりました。本施設は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点を複合整備するもので、こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定した上で、基本設計を進めてきたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとつぐりに必要な施設であると考えております。 事業費の精査や財源の確保に取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 2月12日
57	演劇や歌手用のホールはあるので、海外オーケストラの方々が来てくれるような外見や有名建築家などにお金をかけず、楽都の名に相応しい音響重視のクラシック専用ホールを希望する。仙台から世界に羽ばたく音楽家が育つように、駅から近くて通いやすい場所を希望する。パイプオルガンも設置して音楽の幅も広げていただけたとありがたい。 また名古屋市栄のホールのように、アートルイブラリーを設置して芸術に関する情報、資料を閲覧、レンタルできるようにして欲しい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する音響性能を重視するという方針のもと、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、整備を進めております。 転換型ホールでも、十分な重量のある音響反射板を備え、音響性能に優れると評価されている施設が全国に多数ございます。本施設も同様に、上記音響設計会社の知見を十分に生かしながら、高く評価される施設を目指してまいります。 整備予定地は地下鉄東西線国際センター駅に隣接しており、公共交通機関で通いやすい場所となっております。 また、仙台の文化芸術の過去と今にまなざしを向け、将来に向けた創造の資源としていくため、本施設における公演・活動の記録をアーカイブとして遺していくことに留意するとともに、先人の功績の顕彰、音楽にまつわる様々な情報の収集・集積などに取り組みたいと考えております。	令和8年 2月12日
58	1.練習室の利用料を安くしてほしい。 2.歩くところは幅広くしてほしい(白杖が当たる)。 3.音響の良いホールになることを願っている。	1.使用料の額を定めるのは今後の段階となりますが、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割などを踏まえながら、検討を行ってまいります。 2.誰もが安心して利用できる施設を目指し、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえて設計を進めてまいります。 3.本施設では、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、コンピューターシミュレーションや音響模型実験などを通じて生の音の優れた音響性能の実現を図ってまいります。	令和8年 3月16日
59	※2月1日の「第8回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」の中で開催した意見交換会を踏まえてのご意見 1.車椅子の方の質問ででした、センサリールーム(センサリーフレンドリールーム)と、回答で触れていたクワイエットスペースは用途や機能が違うので、しっかり世界基準で検証してほしい。 2.視覚障害の音楽家の方が意見で伝えていた、地下鉄やバスの利便性と、コンサート時における増便については、リアルで鋭い視点だった。この見本市に来るとき、この方は、全盲のご夫妻でタクシーで来られており、かつタクシーを降りた歩道からせんだいメディアテーク内の会場までは、ほんの数メートルではあるが、通行人の方がボランティアで誘導してきた。さらに、帰路は、自宅最寄り行きバス停のある電力ホール前バス停まで、わざわざ別のボランティアを調整し、せんだいメディアテークから移動していた。このご夫婦は仙台でもまれなアクティブな方である。仙台市だけでも2000人いると言われている視覚障害の方たちに、様々な角度からアクセシビリティを実現してほしい。 3.ろうの女性が、意見を伝える場で東京文化会館の演目やアクセシビリティにふれていたが、仙台市で委嘱した東京文化会館やKIITOの専門家と仙台市民や設計者がともに学ぶ機会をつくってほしい。 4.参加者の方の発言によって、音楽の捉え方や災害文化の議論の不足が明らかになった。また、東北福祉大学の教員が障害当事者参加型のデザインプロセスを直前に発表した(※「大見本市」の中で、本見本市の1つ前に行われた、東北福祉大学共生まちづくり学部石塚裕子教授による発表が行われた)ことで、本来あるべき市民とのワークショップの作り方にヒントを得られたと思う。今後の、専門家との連携にもっともっと、仙台の資源を使っていたきたい。	1.本施設は、文化芸術と災害文化の拠点という施設特性を踏まえ、心を落ち着け、大切な人やあたりまえの日常に静かに想いを巡らすことができるクワイエットスペースという空間を設けますが、これとは別に、センサリールームに相当するものとして、大ホール・小ホールに、遮音性があり誰でも安心して公演を鑑賞できる部屋を設けます。また、気持ちや体調を整えるために一時的に避難したり休憩したりできる場所としては、施設の各所に外の空気に触れられるテラスを設けるほか、イベントの性質に応じて仮設のカムダウンスペースを設けるなどの運営上の配慮もしてまいりたいと考えています。引き続き、障害のある方やその支援をする方からのご意見を伺う機会を設けながら、誰もが安心して来館できる施設を目指してまいります。 2.駅と施設をつなぐ動線は、段差がなく雨に濡れずに施設に入れるようにするほか、タクシーについても乗降場所を適切な位置に配置できるよう計画を進めております。誰もが安心して来館できる施設となるよう、引き続き障害のある方から意見を伺う機会を設けながら、設計を進めてまいります。 3.本市では、施設運営や事業等について専門的な見地からの意見や助言を得るため、東京文化会館やKIITO(神戸デザイン・クリエイティブセンター)の方を含む4名の管理運営アドバイザーを委嘱しております。管理運営アドバイザーから市民や設計者がともに学ぶ機会の場を設けることについても検討してまいります。 4.ホールのあり方、音楽の捉え方、災害文化など、施設の運営について市民の皆様とともに深めていく市民共創型の対話の場を、今後設けていきたいと考えております。また、障害のある方と意見交換する機会を今後とも設けていくとともに、様々な分野の専門家にご協力いただきながら、あらゆる人に開かれた施設の実現を目指してまいります。	令和8年 3月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
60	音楽ホールの席数について削減の意見があるようだが、是非2000席以上の今の計画でお願いしたい。全国規模の音楽イベントはこの規模が必要だ。安易に減らしたら2度とできない、私は市民合唱団で活動しているが日立システムズホールの演奏会の日にちを押さえるのにととても苦労している。その緩和のためにもよろしく願いたい。	「楽都仙台」としての文化芸術をさらに発展させる拠点を目指し、いただいたご意見を踏まえながら整備を進めてまいります。	令和8年 3月16日
61	音楽ホールに関して、コンサートをやる側にとっても使いやすいホールとなることを切に願う。そのためには、コンサートをやる側の方々(演奏家等)をアドバイザーとして迎えることが必要だ。 例えば、シンガーソングライターの小田和正氏は過去のインタビューにて、大学～大学院にて建築を専攻した経験を踏まえて、建築物としてのコンサートホールについて私見を述べている。その概要は以下のとおり。 ・コンサートやる側の人間のことを考えていないのがほとんど。 ・音楽ホールでいちばん使用頻度の高いのは、明らかにクラシックではないはずなのに、「ここはオペラもできます」って、誰がここでいつオペラやるわけ？ ・いちばん最初に、どうしたら客と演奏者が一体になれるか、を考えるべき。 ・音楽ホールの設計については、楽屋とか搬入口とかのことも含めて演奏者に聞くべき。 ・維持するだけで赤字、毎日全部埋まったとしても赤字、建てるの金がかかりすぎて採算取れないのは、遡る前からわかってたこと。(東京国際フォーラム) ・間口が広くてステージが広いのがいい。見切れない。(大阪フェスティバルホール) ・客席がずーっと後方までである奥行きが深いところは一体感がない。 ※ 出典:「小田和正インタビュー たしかなこと」(小貫信昭・著、ソニーマガジンズ・刊、2005年3月18日発行)pp108-111 2千人規模のホールでのコンサートとなれば、照明や音響関連の機材も大掛かりなものになることが多いと思う。特に搬入口については、搬入が大変という所が多いようなので、せっかく新しく設計するのであれば、この点も充分に考慮していただきたい。	劇場や音響設計の専門家を含む体制でホールの設計を進めているとともに、中間案の発表後には地元プロモーターなど実際にこのホールを使用される方々からご意見を伺う機会を設け、そこでいただいたご意見を踏まえて来場者動線や搬入口の利便性などの改善を図っているところです。多様な演目に対応し、公演主催者にとっても観客にとっても使いやすい施設となるよう、引き続き多くの方のご意見を伺いながら整備を進めてまいります。	令和8年 3月16日
62	2/1の見本市の検討会(「第8回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」の中で開催した意見交換会)に参加した。視覚障害者支援に携わっている。視覚障害当事者複数の方と参加したが、今後についてお願いがある。視覚障害者のための会議資料が何も用意されておらず、非常に残念だった。点字版の資料、触る模型などがあればわかりやすく、意見を述べたり、お願いができたりしやすくなる。配慮に欠けていたと思う。今後、障害別の会議を予定しているとのことだが、視覚障害者にとって必要な資料の準備をお願いしたい。なお、点字資料は就労継続支援B型事業所がある。優先調達推進の観点からも、併せてよろしく願いたい。	今後も障害のある方からご意見を伺う場を設けてまいりたいと考えており、いただいたご意見を踏まえ、視覚障害者の方にとって分かりやすい資料の提供に努めてまいります。	令和8年 3月16日
63	全く無駄である。古いインフラの整備等やるべき事がある。仙台市は金持ち自治体なのか？仙台市役所、泉区役所等箱物ばかり金を使うのは納得出来ない。又計画の建物もライフサイクルコストの掛かる建物となっている。白紙撤回を願う。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。また、中心部震災メモリアル拠点については、2度にわたる検討委員会等で議論を重ねてまいりました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところでございます。本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとつぐりに必要な施設であると考えております。コスト意識を強く持つとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 3月16日
64	1.仙台市若林区には、すでに「せんだい3.11メモリアル交流館」が設置されている。その現状を踏まえると、青葉区青葉山に新たな複合施設として東日本大震災メモリアル拠点を整備する意義や必要性について、より明確な説明が求められるのではないかと。まずは既存施設の改修や増築、さらには機能強化や認知度向上に取り組み、その活用を一層図ることが優先されるべきだ。 2.また、新設予定の音楽ホールについては、「仙台医療センター」跡地に移転予定のホール(※宮城県民会館)との役割分担やコンセプトの違いを、より明確に打ち出す必要がある。仮に新設するのであれば、中途半端な規模や仕様にとどまるのではなく、世界最高水準を目指した設備・音響性能を備えた、国内外に誇れる施設となることを期待する。 3.さらに建設地については、計画が進んでいる現状では難しい面もあるのかもしれないが、都市の「顔」としての象徴性や集客力を重視するのであれば、仙台駅周辺の土地活用も検討に値したのではないかと。都市全体のにぎわいや回遊性の向上という観点からも、立地の在り方について改めて議論が深まることを望む。	1.震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からいただいた提言を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承することの方針のもと、沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備してまいりました。中心部拠点では、沿岸部の施設が積み重ねてきた蓄積をもとに、未来の災害に備え、乗り越える知恵や術を市民の皆さまとともに創り出していく役割を担うものであり、既存の施設と密接に連携してまいります。中心部拠点を訪れた方に、沿岸部に興味を持っていただき、沿岸部で学ばれた方が中心部拠点でさらに深めていただく、そうした仕組みづくりを通じて既存施設の活性化にもつなげてまいります。 2.本施設は、文化芸術と災害文化が交わり仙台ならではの文化を創造・発信する、世界に類のない施設を目指しております。また、世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと、生の音源に対する優れた音響性能を追求しております。こうしたことにより新県民会館との役割分担を図りながら、仙台の文化芸術をさらに発展させ、国内外から人を惹きつけ、市民の誇りとなる施設を目指してまいります。 3.青葉山エリアは豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、大手門復元やこどもの屋内遊び場の整備といったプロジェクトも進行している、本市にとって象徴的な場所であり、本施設の整備を通じてこのエリアをさらに魅力的で多くの人を惹きつける場所とすることで、仙台のまち全体の活性化や都市ブランドの向上に貢献できるものと考えております。また、都心部も含めた回遊性を向上させるための様々な取組みも行っております。なお、仙台駅周辺での整備につきましては、敷地の確保が課題となるものと認識しております。例えば、旧さくらの跡地の敷地面積は現在の整備予定地の面積の1/3未満であり、本施設の立地場所としては広さが不足しております。	令和8年 3月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
65	・懸念(事実ベース): 総事業費が約646億円規模まで増額している理解(整備費623億円+備品等23億円)。物価上昇で、今後も増額の可能性がある点。 ・懸念(評価・影響): 将来の運営費・維持更新費が増える局面で、財源は実質的に税負担に跳ねやすい。既に財政が厳しい中で、現役世代・将来世代の負担増(税負担・サービス削減)になる。 この音楽ホールができたことで観光客が増えるとは思えない。市民の利用も市民がより高齢化する中で利用が増えるとは思えない。そんな財源あるなら、若者や子育て世代への還元を増やすべき。 ・求めたいこと: 運営費・維持更新費の年次見込み(30年・50年など)と、その財源内訳は? 物価上昇を踏まえた総事業費の上振れレンジ(幅)を、なぜ示せない/示さないのか? 既存施設の改修や規模縮小など、代替案と費用対効果を同じ条件で比較した資料はあるか? 市が述べる財源確保(企業版ふるさと納税・市債等)の見込み額と確度、不足時の対応は? 今後さらに増額した場合の意思決定ルール(どこで立ち止まるか)は設定しているか?	運営費・維持更新費につきましては、年間約18億円を見込んでおります。その財源として、施設使用料収入約2億円、チケット収入・補助金等約2億円のほか、協賛金・寄付金などさらなる外部資金の獲得に努めることとしております。 物価上昇を踏まえた総事業費の上振れ幅や代替案との費用対効果の比較につきましては、様々な要素が複雑に関わってくるため具体的な金額のお示しは困難でございますが、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、コスト縮減に努めてまいります。 財源面につきましては、現時点で見込んでいる市債額は476億円であり、今後はさらなる地方交付税措置のある地方債の活用や、活用可能な国の財源の検討、企業版ふるさと納税など外部資金の確保を進めることで、本市の財政負担の軽減を図り、整備状況を丁寧に説明しながら整備プロセスを進めてまいります。	令和8年 3月16日
66	仙台市に巨額の音楽ホールと、災害文化と称してする複合施設は不要。 青葉山に作ってどの位の集客を見込んでいるのか? 県の音楽ホールと同じ程度のものが必要とする後付けの災害文化は要らない。 この複合施設に付いて住民投票をして賛否を問うべきと考える。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴しました。宮城県・仙台市それぞれにおいて需要想定調査を実施し、新県民会館と本施設の双方に十分なニーズがあることも確認しております。 また、中心部震災メモリアル拠点については、2度にわたる検討委員会等で議論を重ね、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところでございます。 年間来場者数の見込みは約54万人、うち県外来場者は約4万人と試算しており、魅力的なコンテンツの開発、新規の顧客を戦略的に増やしていく取組み、建築物の個性を生かす取組み等を行うとともに、青葉山エリア一体としての観光振興の取組みと連動していくことによって、更なる県外来場者の獲得を目指します。 引き続き、市民の皆様との対話の場を設けるなど、この施設についてのご理解の輪を広げることに取り組みながら、整備を進めてまいりたいと考えております。	令和8年 3月16日
67	建設反対。地下鉄の多大な借金の中さらに600億もの借金をするなんて仙台市が破産してしまう。その責任を郡市長はどうとるのか。もしお金があるなら、今ぎりぎりでがんばってる現役時代のため、本当に困っている老人、子育て中の人のため幼稚園保育園、学童保育等の整備に使うべき。 また、建設の目的を果たすために使用目的を追加しているようだが、最近の市内各ホールの使用を見ていると、オペラはない。また仙台フィルも定期演奏会以外で特別な企画公演を聞いたことがない。音楽堂といってもその土壌がないように思う。今さらだが音楽堂が必要であるという気運をたかめるような仙台市の努力も感じられない。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様へ豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。 引き続き、より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、発信手法やタイミングを含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年 5月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年5月31日までに寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
68	①「本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めていく。」と言いながら、仙台市ホームページのトップに複合施設に関する情報がないのはなぜか。理由を教えてください。複合施設に関する情報をわざと見つけにくくしているようにしか思えない。 ②音楽ホールを必要な人は少数なのは明らか。整備するなら利用料を高く設定して、受益者負担の割合を増やすのがいい。音楽ホールはほしい、しかも安く使いたいでは、単なるご都合主義だろう。欲しい人がお金を負担するようにすべきだ。 ③自分は音楽ホールがなぜ必要なのか分からない。市当局も、復興で音楽の力が果たした役割が大きい、経済効果がある、音楽ホールがほしいという声があったとか、場面場面でその場しのぎのようにいろいろな理由を述べているが、話に一貫性がないので、全く心に響かない。経済効果があるなら、なぜ過去に音楽ホールの整備をするのを断念したのか。その時と今では何が違うのか？全くその辺の説明がないので納得しない。その辺をあらためてホームページ等で説明すべき。整備に1,000億円もかかると聞く。ステークホルダーへの説明が不足している。仕事の進め方が雑である。	①現在、仙台市ホームページトップの下部「取り組みを知る」より、本整備事業に関するページにアクセスできるようにしております。情報発信については、より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、発信手法やタイミングを含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。 ②施設の使用料については、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割、受益者負担の考え方や周辺施設とのバランスなどを総合的に勘案し、今後具体的な検討を行ってまいります。 ③本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただけており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。本施設は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点を複合整備するもので、こうした状況を踏まえ、基本構想および基本計画を策定する各過程でパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら進めてきたところです。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとつづくりに必要な施設であると考えております。 事業費の精査や財源の確保に取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。 引き続き、市民の皆様との対話の場を設けるなど、この施設についてのご理解の輪を広げることに取り組みながら、整備を進めてまいりたいと考えております。	令和8年 5月12日
69	建設物価調査会の物価指数をはるかに超える予算増となっている。設計者に予算管理能力があるのか疑問に思う。また、維持管理費を設計者自らがきちんと試算できているのか？あの形状での漏水、地震時の層間変位によるガラス破損・脱落は設計責任になると思うが、検証しているのか？	設計にあたっては、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら進めております。 今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、引き続きコスト縮減に努めながら、誰もが安心して来館できる施設となるよう、設計を進めてまいります。	令和8年 5月12日
70	今回の計画には数々の問題点がある。解決せずに進めると、将来への負債となり得るため、早急に見直していただきたい。 1.収益性 国立博物館でさえ高い目標値が掲げられた。ましてホールは人を集めることが前提の施設であり、極端な赤字は許されない。現在の規模で進めた場合、維持費も念頭に真に黒字化が可能なのか、仙台市民に示していただきたい。 2.複合施設の意味 時間が経過し、記憶の風化が進む中、本物の持つ力がより意味を持つようになっている。何故青葉山にメモリアル拠点なのか分からない。ハブとして、青葉山を起点に地下鉄を使ったツアーを企画しているのかもしれないが、それなら国際センターや緑彩館、若林区役所、荒井駅等で十分である。遠方からの来館を期待するならばバスを停められる駐車場が必要だが、難しいと思われる。誰の利用を想定しているのか見えてこない。もし観光を兼ねて「青葉山で」震災にも触れてほしいのであれば、海岸方面の被害を知る一人として不愉快である。	1.運営費・維持管理費につきましては、施設使用料やチケット収入・補助金等のほか、協賛金・寄付金などさらなる外部資金の獲得に努めることとしており、指定管理料などの本市の財政負担の軽減を図ってまいります。 2.中心部震災メモリアル拠点については、2度にわたる検討委員会等で議論を重ね、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点を連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。中心部拠点を訪れた方に、沿岸部に興味を持っていただき、沿岸部で学ばれた方が中心部拠点でさらに深めていただく、そうした仕組みづくりを通じて既存施設の活性化にもつなげてまいりたいと存じます。 本市はじまりの地である青葉山エリアは、文化、歴史、学術資源が集積する地でもあり、本施設の持つ意義を最大限発揮することができる立地であると考えております。	令和8年 5月12日
	3.立地について 歩いていける距離に東北大の萩ホールがある。差別化をどのように考えているのか分からない。小ホールの活用など、明確に打ち出すべきではないか。また、周辺道路の渋滞対策を丁寧に実施してほしい。この周囲は車線が少なく、朝夕の渋滞がひどいが、迂回路がない。黒字化のためには県外(東北や北関東)からの来客を当然想定していると思うが、車で来仙した場合の誘導を含め計画してほしい。(ここが甘いとう当然他のホールに客を取られてしまう)加えて、高校・大学入試のときは導線が重なるため、ホールをイベントに貸し出さないようにしないと、大きな批判が起きかねない。 4.震災復興の予算として 先日避難所にもなった中学校の体育館での行事に参加したが、カーテンには穴が空き、大型暖房も効かず、大変寒い経験をした。当然夏は暑いだろう。周辺は高齢化が進んでおり、もしまた避難所となった場合、震災関連死は避けたいと思われた。また、沿岸部の道路は毎日渋滞がひどく、急な津波が来た場合に、震災前以上の被害が起きかねない。メモリアル拠点を建てて、本来の震災対策が疎かになるのは嘲笑ものであり、万一の震災が発生したときに全国から批判が集まるだろう。逆に、複合拠点を避難所として活用する予定があるなら、今の段階で明示したほうが理解はまだ得られると思われる。	3.本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところがございます。加えて、生の音源に対する音響性能を重視するという方針のもと、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、整備を進めております。 青葉山エリアでは、イベント時などにスポット的な交通渋滞が発生することは課題であることは承知しており、運営にあたっては、交通局や近隣施設とイベント等の開催情報を共有し、公共交通機関の利用の周知を図るなど工夫してまいりたいと考えております。 4.本施設は、震災の経験と教訓に基づく災害文化の創造を通して、普段から災害に備え、災害から立ち上がる力を広める役割を目指しているため、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、帰宅困難者の一時的な受け入れなどのために必要となる物資の備蓄庫を1階に設けております。 将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
71	・特徴的な外観を作っているのに、その説明が少ししか書いてない。バブル時代の象徴のように、気持ち悪い。 ・災害文化とは何か？ ・日常の居場所とは？そもそも日常的に人が集まる周辺環境ではない。 ・工事費の精査を進め、と書いてあるが、設計の工夫をすることで工事費の縮減を図る、の間違いではないのか？	本施設は、東日本大震災の伝承のみならず、震災からの復興過程で認識された文化芸術の力も生かしながら、これからの災害に備える知恵や術、災害が起きたときに立ち上がる災害文化の力を育み、国内外に広げていくことを目指しております。また、将来を担う子どもや若い人に多様な文化芸術体験や災害の学びの機会を提供することを重視しています。 文化芸術と災害文化の複合施設として、多様な目的を持った人々や活動が交わり、共鳴する中から仙台ならではの新たな文化が創造されていく拠点を目指しており、そうした理念を実現する空間としてこのような設計案となっております。また、施設の外観については、屋根を分節することで、周辺への圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図られるようにしております。 青葉山エリアは豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、大手門復元やこどもの屋内遊び場の整備といったプロジェクトも進行しているエリアであり、このエリアをさらに魅力的で多くの人を惹きつける場所とすることを目指しております。 整備にあたっては、コスト抑制の意識をもって、設計を進めてまいります。	令和8年 5月12日
72	音楽制作(J-POP)に携わる者として、今般の施設完成に大きな期待を寄せている。その上で、以下の2点について要望する。 (1)市民が利用できる音楽参加スペースの充実 市内には音楽・ダンス利用者が多く、リハーサルスタジオやライブハウスも常に稼働している。新施設においては、音楽やダンスを十分に練習でき、市民利用施設予約システムで容易に予約できる環境を整備してほしい。 近年は、YouTube配信者やDTMによる個人創作が増加していることから、2～3坪程度の小規模防音スペースを複数設け、少人数・個人でのレッスン、配信、制作活動が可能となれば、アーティスト創出の機運が広がり、若年層の来仙・移住促進にもつながると考える。 (2)デザインの簡素化と安全確保 公開されている外観およびロビーのイラスト、とりわけ大階段の構造について、終演後の観客の安全な退出という観点から強い懸念を抱いている。降下するにつれて幅が狭くなる階段は、終演後の混雑時に滞留や衝突を招き、群衆事故の危険性が高い。加えて、階段下に設けられた段差のあるスペースについても、転倒・落下の恐れを感じる。 意匠性よりも人命および身体的安全確保を最優先とし、再度の検証を求めたい。また外観についても、装飾的なデザインに経費を割くより、実際に音を出し、活動できる空間の充実に投資する方が、「多様な活動が共存し響き合う」という施設趣旨により適うと考える。装飾要素を増やしても響き合いは比例しないが、音を鳴らせる空間を増やせば、自然と響き合いは広がる。 音楽に携わる者の一意見として、特に安全面については人命に直結する問題であり、改めて慎重な検討を強く要望する。	(1)本施設には、大ホールの他に約350席の小ホール、100～200名程度の発表会にも対応したリハーサル室、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオ、練習室(大・中・小)を12室、収録室を設けることとしており、市民の皆様の多様な活動を支える拠点となることを目指しております。 (2)1階交流イベントロビーは、ホール来場者に限らず、誰もが気軽に立ち寄り、居場所を見つけられる「開かれた広場空間」となることを目指しています。一方でロビーの段差については、これまでの意見交換等も踏まえ解消を図っており、また動線計画や運用面での工夫については、誰もが安全に利用いただける施設となるよう引き続き検討してまいります。 施設の外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇(ひさし)を深く張り出し、日差しを遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。 生の音源に対する音響性能を重視するという方針のもと、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、整備を進めております。音響設計会社の知見を十分に生かしながら、高く評価される施設を目指してまいります。	令和8年 5月12日
73	音楽ホールは不要であると考え。なぜ今、仙台市に音楽ホールが必要なのか、明確な説明を求める。 賛成派は「仙台市には専用の音楽ホールがない」と言うが、それならなぜこれまで整備されてこなかったのか。過去に整備構想が断念された理由は、厳しい財政状況の中で、一部の利用者に限られる施設よりも、市民センター等、より多くの市民が利用できる施設を優先したためであったと聞いている。財政状況が変わらない今、仮に音楽ホールを整備するのであれば、市民センターや文化センター等の公共施設の廃止・統廃合も併せて検討すべきである。その考えがあるのか示してほしい。 また、運営主体も重要である。仙台市市民文化事業団が運営予定と聞くが、同事業団が運営する施設に、十分に活性化している例は見当たらない。多額の公費を投じる以上、運営団体の選定についても、外部有識者による公開プレゼン・審査を行うなど、透明性を確保すべきである。公開選定を行う考えがあるのか。未定であれば、いつ頃決定するのか回答を求める。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールを整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところであり、既存施設では対応できなかった多様な公演のニーズ、市民の皆さまの多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 また令和2年度に実施いたしましたホール体系整理において、既存のホール施設の位置づけを改めて整理するとともに、老朽化が進む市民会館や戦災復興記念館のホール機能につきましては、音楽ホール開館後は施設の更新は行わない方向で整理をしたところでございます。 指定管理者については、公募によらない選定とし、市と指定管理者が連携した開館準備を早期から進める方針としており、今後具体的な検討を進めてまいります。	令和8年 5月12日
74	仙台市内に宮城県立劇場ができるのに、なぜ仙台市でも音楽ホールが必要なのか。県立劇場ができて、稼働状況なども見定めて、本当に必要なら、仙台市でも作ればいいのではないかと。需要予測はしているようだが、需要予測は、数字をいじれば何でもなる調査である。こんなにお金をかけてまで音楽ホールを作る必要はないのではないかと。	宮城県立劇場には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれております。 また、仙台市民会館(1973年開館)や戦災復興記念館(1981年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としており、市民会館や戦災復興記念館の各ホールで受け止めてきた需要を、宮城県立劇場一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。 こうした需要面の視点に加え、本複合施設は仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しており、多くの市民の皆様が多様な文化芸術の創造や体験の機会を提供してまいりたいと考えております。	令和8年 5月12日
75	外観のデザインは仙台市にゆかりのある、震災を間近で体験した設計者に依頼すべきではないか。 木片をアンバランスに組み合わせたデザインは、震災津波で流されたガレキを思い起こさせる。震災を肌で経験した人なら、あのような発想にはならないと思うが、いじりがか。	基本設計者選定においては、公募型プロポーザル方式を採用し、設計の方針や技術的な提案を募って、設計者を選定したものです。 東日本大震災は本市にとって極めて重要な出来事であり、意匠や空間の受け止め方について様々な感じ方があることは認識しております。屋根が多層的につながる外観については、屋根を分節し、段階的に設けすることで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。	令和8年 5月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
76	仙台市の現在の財政状況を踏まえた場合、本計画の規模や事業費の考え方について疑問を感じている。想定を上回る見積もりが示された場合に、際限なく費用を投じることができるのは、相当な余裕のある場合に限られる。現在の仙台市はそのような状況にあると言えるのか。もし余裕があるのであれば、近年導入にあたって議論を重ねてきた宿泊税はなぜ必要だったのか、という疑問も生じる。今回の事業費の上振れによって、宿泊税による税收効果が一瞬にして蒸発しないか。 40年にわたり整備が進んでいない都市計画道路については十分な予算が充てられず、市民が日常生活において交通の不便や事故のリスクにさらされている現状がある。ここまで仙台が全国から羨望される都市になったのも、有益な予算執行を続けてきたからこそだと思う。今回の計画の進め方は、そうした長年の信頼を損なうおそれがある。伊達政宗公が家訓において質素倹約の重要性を説いたように、見栄や過度な豪華さは、将来的な負担を招きかねない。 昨年、設計者による説明会が開催されたことと承知しているが、設計者が誰であるかによって、市の公共施設としての価値が左右されるものではない。市民が求めているのは、設計の説明以上に、意思決定を行った責任者から説明がなされることである。仮に市長自らが本計画の説明を行った立場であるのであれば、その判断に至った経緯や考え方について、責任ある説明を強く求める。	複合施設の整備にあたっては、今後ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、工期短縮、コスト縮減に取り組むとともに、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保するよう、財政部署とも協議し事業を進めてまいります。 今後、5月13日と5月23日の市民説明会、6月6日のシンポジウムにおいて、複合施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、多くの方にご理解いただきながら事業を進めてまいります。	令和8年 5月12日
77	すぐそばに東北大学の萩本ホールがあり1200名は入ると思う。それを活用して、仙台市の音楽ホールを縮小することは可能ではないか。縦割りの考え方は令和においては古い。また大きなコンサートは娯楽なので、当面セキスイーパーアリーナでよいのではないか。県の施設と一本化することも考えられる。 またこの複合施設の建築デザインが複雑で、設計料、建築費がかさむ。複雑な建物は傷みやすく、維持費が高くなる。建築には特注の部品が次々と発生し、年月がたつとその部品すら調達することができなくなる。メモリアル拠点であればこそ長続きする建物、仕組みが必要。そのためにはシンプルさと修繕のしやすさが重要である。 市の施策は有力者が決めたらその方向に行き、止められないことが報道や映画、ドラマで知られている。そうっていないか？閉鎖的な組織で作られた施設は、結果閑古鳥(赤字・重荷)の施設になる。今も未来も650億円以上かける建物が必要か。庁舎を新しくしたばかり。今後下がる見込みのない不安な物価高の中、今は少子化対策や病院の財政安定、市財政の健全化集中した方がいいと思う。ものの未来より、ヒトの未来と思う。アイデアはいくつもあると思う。特に若い市職員の皆さんはどう思われるのか。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、整備の検討を進めてきたところでございます。 本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取り組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かさをもたらし、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。 整備にあたっては、利用者にとっての使いやすさや維持管理コスト、メンテナンス性も十分考慮しながら進めてまいります。	令和8年 5月12日
78	今回の音楽ホールの完成にあたり、文化芸術の発信拠点として仙台の地が注目されることに、大きな期待を抱いている。 建設費高騰の扱いについては、今後の議論を経て一定の結論に至るものとするが、私が憂慮しているのは、完成に向けて施設側の事情が優先され、主催者や演者といった利用者側への配慮が十分に検討されているのかという点である。 まず気にかけているのは、施設の利用料である。コンサート等でホールを使用する際の利用料は、主催者が会場を選定する際の大きな要素となる。仮に、建設費高騰への対応として「利用料を適正に設定する」という名目で割高な料金設定がなされれば、主催者はチケット価格を引き上げざるを得ない。しかし、物価高騰が続く現在において、高額なチケットでも集客できるのは、一部の知名度や動員力を有するアーティストに限られる。 利用料が高くなればなるほど、本施設の利用を避ける主催者が増え、稼働率が下がることも想定される。「利用料を上げれば支出増を補える」という単純な発想ではなく、稼働数を見据えた緻密なシミュレーションに基づく料金設定が必要ではないかと考える。利用料金については、むやみに割高とならないよう、慎重な検討を求めたい。 もう一点、念頭に置いていただきたいのは、「演者・アーティストの修練の場の環境整備」である。音楽ホールは完成品を見せる場である一方、演者・アーティストが多くの時間を費やしているのは日々の修練である。また、豪華な生活ができる演者はごく一部であり、多くは質素な生活の中で音楽と向き合っていると想像する。 世界最高峰の設備を備えた音楽ホールを擁する都市を目指す一方で、修練の場が地方都市並みに留まるのであれば、それは芸術を慈しむ心を欠いた美術館のごとく、至高の芸術品にカビを生やす空虚な拠点となってしまう。施設の目的が「完成品を見せること」であるのは当然だが、足元の音楽振興が軽視されれば、せっかくの藤本壮介氏の創作建築も「見栄っばりの象徴」として揶揄される恐れがある。 については、演者・アーティストが低廉な料金で十分に修練できる小規模スペースを、音楽ホール複合施設内または周辺に整備し、仙台の地で技能を磨き続けられる環境づくりについて検討をお願いしたい。 本施設の完成は、「仙台＝音楽芸術都市」を世界に発信するまたとないチャンスであると同時に、仙台市が文化芸術の根幹とどこまで真摯に向き合っているかが問われる場でもある。 施設側、主催者・演者側、観客側の三者がともに利益を享受できてこそ、本施設は真に評価されるものとなる。世界最高峰にふさわしい成り立ちと運営がなされることを、一市民として切に期待したい。	本施設では、これまで仙台で開催できなかった大編成のオーケストラ公演、オペラ・バレエなど総合舞台芸術の本格的な公演、文化芸術の大規模な大会などが開催されることを見込んでおります。施設の使用料については、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割、受益者負担の考え方や周辺施設とのバランスなどを総合的に勘案し、今後具体的な検討を行ってまいります。 本施設には、大ホールの他に約350席の小ホール、100～200名程度の発表会にも対応したリハーサル室、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオ、大・中・小合わせて12室の練習室を設けることとしており、市民の皆様の多様な活動を支える拠点となることを目指しております。 本施設は乳幼児を含む子どもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しております。また、市民とプロがともに活躍する施設となり、多くの方々が最高水準の舞台に立つことで、個々人の創造性、ひいてはまち全体の創造性を高めてまいりたいと考えております。このように、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かさをもたらし、仙台の新たなランドマークとして国内外から多くの人を惹きつける拠点となることを目指し、整備を進めてまいります。	令和8年 5月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
79	音楽活動をしている者だが仙台に2つの音楽ホールはいらない。仙台の賑わいを生むのに音楽ホールは必要という考えは一理あるが、音楽ホールを作れば必ず賑わいが生まれるわけではない。要はその施設をどのように運用していくかが大事。仙台市は施設を作ることが目的化しており、その後のことは抽象的な説明しかない。作るのを急がず運営の具体的なビジョンを明らかにすべき。説得力ある具体的な説明があるまで事業は凍結すべき。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。宮城県立劇場には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かな暮らし、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。	令和8年 5月12日
80	複合施設の必要性をもう少しわかりやすく発信してはどうか。市の説明が漠然としていて、いまいち伝わってこない。機械的な説明で、市の本気度が伝わってこない。市が見積もっている経済効果の積算根拠を具体的に示してほしい。第三者が検証することで、見積もりの妥当性を検証できるのではないか。また、市民の意見を真摯に受け止め、誠実に回答してほしい。意見を無視された人もいる。自分に都合の悪い意見は無視して、都合のいい意見にだけ答えるのはいかか。情報開示請求すれば分かることかもしれないが。	本施設では、既存の市内の類似施設や市内イベントの実績などのほか、集客が見込める魅力的なコンテンツの開発、青葉山エリアでの立地を生かした周辺施設や観光施策との連携を図ることで、観光消費額の大きい県外来場者数および宿泊者数の拡大につなげていくという視点も踏まえ、経済波及効果を推計したところ。市民の皆様からいただいたご意見につきましては、すべての内容を確認の上、本市の考え方を公に回答させていただきます。整備の必要性や、この施設がもたらす価値について市民の皆さまと対話を重ねながらご理解をいただくとともに、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年 5月12日
81	物価高騰の折、建設コストが3倍以上に膨らみそうだが、東京都中野区サンプラザ再開発構想でさえ一旦立ち止まり再検討を行っている。仙台市においても一旦白紙撤回し、再検討する事を望む。また宮城県民会館もオープンする予定だが、県と市での事業競争の様で醜い。特に仙台市の音楽ホールの外観は這構を作りたいのか屋根など重視した煌びやかな外観。これだけ凝った外観では建築コストが高くなり、また後々のメンテナンス費用もかなり高額なものになりそうである。外観に拘らないシンプルな外観にし、ホール音響効果重視の音楽ホールの方が良いと考える。なお仙台市として、どうしても建設したいのであればPFI事業も検討してはどうか。是非とも一旦立ち止まり、外観より音響の質重視での再計画を望む。質実剛健！	建設費用は、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、実質的な市の財政負担の軽減に努めてまいります。また、今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、建築全体のコスト縮減・品質向上に取り組んでまいります。屋根が多層的につながる外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。全体的に統一性があるデザインという視点は重要であると考えており、様々な視点を想定しながら、総合的に検討を進めております。世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと生の音源に対する優れた音響性能を持つホールを実現することで、宮城県立劇場との役割分担をしながら、仙台の文化芸術の発展を目指してまいります。	令和8年 5月12日
82	県外出身で舞台芸術に携わり愛する者の意見として受け取っていただければ、生まれは香川。広島、東京と移り住み仙台に来て25年経ったが、仙台は東北一の大都市。立派な劇場があり地方ではなかなか見れないバレエやミュージカル、コンサートがたくさん鑑賞できると期待していたが、正直がっかりした記憶がある。新劇場はこの25年間完成することではなく、観たい！と思うものは仙台には来ず東京まで観に行くことも度々あった。新劇場は仙台駅直結にすべきと思っていたが、それはもう実現しそうにないと思っている。今年、東京文化会館が休館に入る。引越し公演ができるほどの劇場までは望まないが、早く新劇場が完成していれば、休館する数年の間東京文化会館で行われていた様々な作品を仙台に誘致できたのでは？ととても残念に思った。関東からたくさんの方が観に来たはず。せっかく仙台に来たからと観光もしたでしょう。今でも、熱心な方は東京や他都市からも仙台に観に来られる。東京、大阪、名古屋などではすぐsold outしてしまう人気のチケットが仙台なら手に入るからである。裏を返せば、仙台では空席があると言うわけで、素晴らしい舞台なのに申し訳なく悲しくと思うこともしばしばある。仙台市民の舞台芸術への興味関心の低さの現れとも感じる。仙台の劇場の大きさに合わせたコンパクトな編成の舞台ではなく、真正正銘の本物の舞台芸術に触れることのできる劇場を作してほしい。本物は知識がなくとも心に刺さる。仙台市民、子供たちの舞台芸術への興味関心が高まることを切に願う。日本中があっと驚くようなカンパニーを仙台に！日本中の人がチケットを競うような作品を仙台に！演じる側も仙台でやりたいと思える劇場を仙台に！それは仙台市民の誇りになるのでは。	本施設はプロの公演を鑑賞するだけではなく市民も舞台上に上がったり、展示を見学するほか、災害に関する研究を専門家や企業とともに進めたりするなど、市民が多様な主体と協働し、様々な活動や提案を行う「みんな」で育む施設を目指しております。多くの市民の皆様が文化芸術に触れるきっかけとなり、また、市民の皆様から愛され、国内外から多くの人を惹きつける施設となるよう、着実に整備を進めてまいります。	令和8年 6月5日
83	・600億をかけて複合施設を作る必要性はない。 ・昨今の中東情勢の悪化でさらに建設費が上がったと聞いた。建設費を正直に開示すべき。 ・市が算定する経済効果も怪しい。前提条件を開示すべき。 ・将来、事業の効果を検証できるように責任の所在を明確にしてほしい。この意見に対する回答も誰の回答なのか明確にいただきたい。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。建設費については設計が具体化する中で設計事業者とコスト削減の協議も重ねながら費用を算出し、コンストラクションマネジメント業務の第三者チェックを経て妥当性を確認したうえでの金額となっております。引き続き、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。また、経済効果は施設の運営・事業費と来場者による消費額をもとに、宮城県が公表している「宮城県産業連関表」を用いて算出しております。開館後においては、今回算出した額を上回る効果額をもたらせるよう取り組んでまいります。なお、掲載している市の考え方は全て、組織として確認をしたうえで回答しております。	令和8年 6月5日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
84	基本計画のところに「今後は、本基本計画に基づき、設計者選定に向けた準備を進めてまいります。」とあるが、藤本さんが設計者ではないのか？ 藤本さんが設計者でないなら、藤本さんの位置づけが分かりづらい。単なる修正漏れであれば誤解を与えないように修正が必要。 https://www.city.sendai.jp/aobayamaeria/hukugoushisetsu/seibi/kihonkouso_kihonkeikaku.html	基本計画策定当時の記載の表現となっておりましたため、現時点における内容に修正いたしました。 なお、整備事業としては、基本構想→基本計画→基本設計という順で進んでおり、令和6年度に公募型プロポーザルにより株式会社藤本壮介建築設計事務所と基本設計業務委託契約を締結し、令和8年3月に基本設計が完了したところでです。	令和8年 6月5日
85	複合施設の管理運営団体は公募すべきだ。 少なくとも市民文化事業団に委託することのないようにしてもらいたい。 現在の青年文化センターやメディアテークを見ると、市民文化事業団に複合施設の管理運営団体に求められる能力があるとは思えない。 ベガルタのように民間主体の運営にしていけばいい。	本施設においては、開館前の早い段階から高い専門性を持つ人材の確保や育成に努めていく必要があるとともに、本市の文化芸術・災害文化の総合的な拠点として、市との密接な対話・連携のもと、施設単体にとどまらない面的な広がりのある施設運営や政策と連動した事業展開が求められます。こうした視点を踏まえ、指定管理者は公募によらない選定とする方向で検討することとし、市と指定管理者が連携した開館準備を早期から進めます。	令和8年 6月5日
86	複合施設ができた後は、仙台フィルハーモニーへの1億円の活動補助金は削減すべき。せっかく立派な施設ができるのだから後は無駄なお金は使わず自分で稼いで貰えば良いと思う。	本施設では、仙台フィルハーモニー管弦楽団がレジデントオーケストラとして拠点的に活動することを予定しており、当該楽団の活躍が本施設の魅力向上につながるものと考えております。施設整備後においても当楽団の自主的な資金調達や経営努力は重要であり、経営基盤の強化を図りながら、精力的に演奏活動に取り組まれるよう期待しております。 施設開館後の公的支援につきましては、同楽団の運営状況等を踏まえながら、適切な水準とするよう検討してまいります。	令和8年 6月5日
87	維持費が高すぎる、12億の支出で4億円の収入とはどう考えてもおかしいと思う。さらに差額の8億円は市民の税金をあてにすると、300億円の工事費高騰により予算増、今後の高騰は含めない、なぜこんなに数字が杜撰なのか。収入の4億円もふるさと納税や協賛、寄付金とありますが毎年のことだ。明らかにその説明を市民へ説明すべき。経済波及効果は47億円の根拠はなにか。 市民はこれからどんどん減る。それなのに市民の税金を当てにする建物とそれの維持ってなにか。誰かの自己満足に税金が無駄に使われるのは黙っていられない。 人口が減っていく中でこれだけの負の遺産になるものを進めていって誰が責任を取るのか。今だけ自分だけ、ではなくもっともっと深く議論してほしい。音楽ホールであるならば専門家の意見があつてきちんとしたホールを作らないと4億の収入なんて見込めるわけがない。維持費をペイできるぐらいの建物の構造を検討してほしい。	運営費・維持更新費につきましては、他都市の類似施設の水準も参考として年間約18億円を見込んでおります。様々な方に文化芸術に触れる機会を提供するなど公共的事業にかかる部分があり、公費負担はあるところですが、施設使用料収入約2億円、チケット収入・補助金等約2億円のほか、協賛金・寄付金などさらなる外部資金の獲得に努めてまいります。 また、経済波及効果額は、施設の運営・事業費と来場者による消費額をもとに、宮城県が公表している「宮城県産業連関表」を用いて算出しております。魅力的な公演や多様な事業を展開するとともに観光施策と連携することで、観光消費額の大きい県外来場者及び宿泊者数の拡大を図り、年間87億円の経済波及効果が見込まれると考えております。 音楽ホールについては、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、優れた音響性能となるホールとなるよう進めているところであり、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指しております。 整備事業については、これまでもパブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。引き続き、複合施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、ご理解をいただきながら事業を進めてまいります。	令和8年 6月5日
88	①市の経済効果の根拠が不明朗だ。経済効果は担当者の一存でいくらにも操作できる。第三者が検証できるように、市の前提条件を公開すべき。 ②音楽ホール整備の責任の所在を明確にすべきだ。音楽ホール整備の失敗は目に見えている。将来、事業効果を検証するときに誰に責任があるのか明確にしておく必要がある。市民に対する意見を回答する際、誰の回答なのか明確にすべき。 ③なぜ音楽ホールが必要なのか分からない。音楽ホールが不要と考える人にも分かるように、音楽ホールの必要性を説明すべき。それが丁寧な説明というものだ。 ④仙台市のトップページから複合施設の整備について情報が取得できるようにすべき。そういうところに市の情報発信に係る消極的姿勢が見てとれる。 ⑤音楽ホールは必要ありません。即刻中止すべき。	①経済波及効果額は、施設の運営・事業費と来場者による消費額をもとに、宮城県が公表している「宮城県産業連関表」を用いて算出しております。魅力的な公演や多様な事業を展開するとともに観光施策と連携することで、観光消費額の大きい県外来場者及び宿泊者数の拡大を図り、年間87億円の経済波及効果が見込まれると考えております。 なお、来場者数の見込み数の考え方については5月13日と23日に開催した説明会の資料にて記載しております。(資料については、本市ホームページでご確認ください。) ②複合施設の整備は市として取り組んでおり、掲載している市の考え方は全て、組織として確認をしたうえで回答をしております。 ③⑤本市では長年にわたり、約2,000席規模の音楽ホール整備を望む声が多く寄せられ、約1万人の署名や地元経済界からの要望を頂戴しています。また、文化芸術団体や公演主催者からは「市内でホールが予約できない」、「十分な舞台機能備えた2,000席規模のホールがなく開催できない公演がある」との声がある一方、仙台市民会館(1973年開館)や震災復興記念館(1981年開館)は老朽化が進み、本施設開館後は更新しない方針としています。本施設の整備は、需要への対応と既存施設の整理に加え、市民の皆様が日常的に文化芸術に親しめる環境を創出し、本市の魅力と発信力の向上に寄与するものと考えております。 ④現在、仙台市トップページに複合施設に関する情報を掲載しております。今後も整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年 6月5日
89	建設に携わっているが、すべての資材が高騰し、それどころか入荷未定で一般住宅さえ建築できないという先が見えない状態で、多くの企業で会社の存続さえ危ぶまれている中、今の音楽ホールの建築が本当に必要なのか。今後の見通しでは、見積りよりさらに多額の資金が必要となると思われる。庶民の感覚とはかなりかけ離れていると思われる。もっと市場がどうなっているのか、みてみてほしい。そもそも材料はあるのか。 再度ご検討の余地があるのではないかと。ただの一意見(他のみんなもそう思っていると思うが)なので通るとも思っていないが、ちょっと言わずにはいられない。	建築資材の確保については、着工が約2年後を予定しており、今後需給状況や価格動向について注視していきます。 一方で、本事業では今年度より実施設計に着手するとともに、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入する予定とされていることから、設計段階から施工予定者と連携し、資材調達の見通しや施工上の工夫を踏まえた検討を進めることが可能となります。施工予定業者が早期に関与することで、資材確保に向けた準備やリスクへの対応を前倒して検討できる点は大きなメリットと考えています。引き続き、こうした方式の利点を活かしながら、資材確保も含めた円滑な事業推進およびコスト削減に努めてまいります。	令和8年 6月5日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
90	音楽ホールの建設に反対。私の周りに音楽ホールが必要だという人は1人もいない。私自身の文化的関心が低い可能性は否定しないが、それでも税金や保険料は滞納することなく適切に納めている立場である。 市の担当者の方は、このような状況で音楽ホールが必要だという自分の感覚をおかしいと思った方がいい。音楽ホールを整備すること自体が目的化しているようにも見受けられる。 本当に音楽ホールが必要だと思うなら、後世の方がきちんと評価できるように、今の担当者の方は名前をささずべき。その場しのぎで経済効果額を水増ししたが、結果的に後輩職員に負担を残すことになる。 今のままでは絶対うまくいかない。将来世代から批判を受ける施設を作ろうとしている。建築祭についても、後付けのように見えるものがあり、当初から十分に検討されていたとは思えない。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところであり、既存施設では対応できなかった多様な公演のニーズ、市民の皆さまの多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。既存の市内の類似施設や市内イベントの実績などのほか、集客が見込める魅力的なコンテンツの開発、青葉山エリアでの立地を生かした周辺施設や観光施策との連携を図ることで、観光消費額の大きい県外来場者数および宿泊者数の拡大につなげていくという視点も踏まえ、経済波及効果を推計したところです。また、建築の魅力を活かした企画により、交流人口の拡大に大きく寄与するものと考え、そうした視点も含めて経済波及効果を見込んだところです。	令和8年 6月5日
91	根拠のない経済効果を提示するなんて、市の姿勢は不誠実。市はもう少し広報を考えたらどうか。 そもそも音楽ホールが反対の人は、経済効果が理由で反対しているわけでない。 経済効果が上がったからといって、じゃ反対辞めますとはなりません。 市民とボタンの掛け違いが起きたまま突っ走ってもろくなことがない。なぜ音楽ホールが必要か、仙台市に音楽ホールがないと市民がどのように支障があるのか、どうして他の施設より優先順位が高いのかなど、分かりやすく説明する必要があると思う。	より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、情報発信の手法や時期を含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい広報に努めてまいります。	令和8年 6月5日
92	計画している施設は、大変独創的で奇抜な外観ですが、暴風雨・大雪等への対策は大丈夫か。外観を見る限り、構造上、雨や雪は中まで入り込み、風にもかなり煽られそうな印象を受ける。さらに、雨や雪の後始末にも苦労しそう。 外観に拘ってコストが嵩むのであれば本末転倒、施設内部の充実に向けるべきではないか。	施設の外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇(ひさし)を深く張り出し、日差しを遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。 今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら、引き続きコスト縮減に努め、誰もが安心して来館できる施設となるよう、設計を進めてまいります。	令和8年 6月5日
93	事業費が増大していることに納得できない。 建設物価調査会の資料によると、建設費はR5からR8で15%程度の上昇。 設計監理費はR5技師C単価とR8技師C単価の上昇率は20%ではない。 見込みが甘すぎで全くコストコントロールできていない。設計者の言いなりになっているだけなのではないか。設計者の責任で抜本的に設計を見直すべきと考える。	建設費用は、基本設計を進めるなかで、物価上昇のほか免震構造の採用などにより増額となったものであり、設計事業者とコスト削減の協議も重ねながら、コンストラクションマネジメント業務の第三者チェックを経て妥当性を確認したうえで費用を算出しております。今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、引き続きコスト縮減・品質向上に取り組んでまいります。	令和8年 6月5日
94	なぜあのような奇抜なデザインが選ばれたのか、なぜあえて新たにこの地での震災メモリアル施設が必要なのか、市民が納得いく説明が欲しい。	設計者については公募型プロポーザルを実施し、デザインで比較したのではなく、施設の考え方をどう体现できるかを総合的に評価して設計者を選定しました。施設の外観については、屋根を分節することで、圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図ることを意図しております。 中心部震災メモリアル拠点については、本市メモリアル事業を検討する有識者委員会の議論を踏まえ、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承するという方針に基づき整備するものです。中心部拠点を訪れた方に、沿岸部に興味を持っていただき、沿岸部で学ばれた方が中心部拠点でさらに深めていただく、そうした仕組みづくりを通じて、東日本大震災の伝承のみならず、今後も発生する災害に備える意識を涵養してまいります。	令和8年 6月5日
95	5月13日実施の市民説明会に参加した。 様々な意見があったが、当局の丁寧な回答を聞き、市役所内部でしっかりと議論されていると感じた。 施設そのものの必要性を訴えるよりも、「施設が出来た後の目指す仙台市の姿」をしっかりと示す方が説得力があるのではないかと。 最後の質問者の方が「音楽は祈りだ」とおっしゃっていたのが印象的だったが、仙フィル・仙クラ・ジャズフェスなどの既存のリソースに新音楽ホールが加わることで、世界に誇れる「楽都せんだい」を作り上げるのだ、「仙台といえば音楽」と誰もが認識する街にしていくのだ、市民が音楽と慣れ親しみそれを誇りに思えるようにするのだ、といった希望に満ちたまちづくりのビジョンを前面に出していくことが、本施設に対する理解につながると思う。 素晴らしいホールが出来上がることを期待している。	本整備事業については、これまでパブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。引き続き、複合施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、ご理解をいただきながら事業を進めてまいります。 また、これまで培ってきた「楽都仙台」としての文化芸術をさらに発展させる拠点を目指し、多くの方が文化芸術に触れるきっかけとなり、市民の皆様から愛され、国内外からも多くの人を惹きつける施設となるよう、着実に整備を進めてまいります。	令和8年 7月9日
96	事業費の多寡ばかりが強調されているが、完成後の維持管理コストについては、どのような試算がなされているのか。設計内容を見る限り、一般的な施設と比較して維持・修繕費が相対的に増大する可能性があるように感じられる。 仮に、デザイン性を重視した設計(いわゆる「作品性」)に起因して、将来にわたり市民の税負担が大きくなるのであれば、その妥当性については慎重な検討が必要ではないか。 限られた財源である以上、小中学校の改修や子ども支援といった、より直接的に市民生活に寄与する分野への活用も含め、優先順位を総合的に検討していただくことを望む。	施設の外観については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇(ひさし)を深く張り出し、日差しを遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。 今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性も考慮しながら、引き続きコスト縮減に努めてまいります。 また、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税等による外部資金の獲得や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、さらなる財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 7月9日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
97	音楽ホールの整備に期待を寄せている立場の考えだが、意見に対する仙台市側の回答に、客観性が抜け落ちているように思ってしまうことが、合意形成を阻んでいるひとつの要因になっているのではないかと。例えば、多くの方が疑問視している「象徴的な外観」については、仙台市側は『屋根を分節することで…(中略)…景観との調和を図られるようにしています』とコンセプトを説明しているが、意見した方は『あの象徴的なデザインを、なぜ、景観との調和が図られると判断したのか』という、プロセスを具体的に求めているのでは。この点を押さえきれていないため、これまでも、この先も、何度と同じ質問が繰り返されるのだと思う。	基本設計者選定においては、公募型プロポーザル方式を採用しており、設計案そのものを選ぶのではなく、設計の方針や技術的な提案を募って、公開の場で設計者を選定したものです。本施設は、「たくさんの／ひとつの響き」を設計コンセプトとし、文化芸術と災害文化の様々な活動が共存し、あるときには1つにつながるという空間の中で、多様な活動に触れ、文化芸術や災害文化の活動が交わり、まちを豊かで強靱にする仙台ならではの文化を世界に向けて発信する、そうした施設になるものと考えております。本整備事業については、これまでもパブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。引き続き、複合施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、ご理解をいただきながら事業を進めてまいります。	令和8年7月9日
98	今の状況では仙台市の考えている音楽ホールは作らない方がいい。仙台市は、市民が持っている様々な疑問に対して、具体的に答えていない。いつも答えが抽象的で、担当者もニヤニヤしながら答えて、まるで答える能力がないように思う。宮城県も音楽ホールを作る上に、仙台市で施設上の課題があるのであれば、既存の施設の活用や民間のアリーナを誘致するなど、財政的に厳しい今だからこそそのやりかたがあるはず。	本整備事業については、これまでもパブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。引き続き、ECI方式導入によるコスト縮減などに取り組みながら、本施設がもたらす意義などについて丁寧に説明し、事業を進めてまいります。	令和8年7月9日
99	現在計画されている新たな音楽ホールおよび震災メモリアル施設について、市民として疑問を感じる。まず、東日本大震災から既に15年が経過している中で、なぜ今、新たに大規模な震災メモリアル施設を建設する必要があるのか。震災の記憶や教訓を後世に伝えることは非常に重要だが、その役割は既に沿岸部の被災地域にある震災伝承施設が担っている部分も大きいと感じている。特に、津波被害を受けた沿岸地域には、実際の被災地だからこそ伝えられる現実や重みがあるにもかかわらず、内陸部の市内中心地に新たなメモリアル施設を建設すれば、人の流れが中心部に集中し、沿岸地域の伝承施設を訪れる人が減ってしまうのではないかと懸念している。結果として、被災地そのものを訪れ、現地で学ぶ機会が減少する可能性もあると思う。また、現在は世界情勢の不安定化や資材価格高騰、エネルギー価格上昇の影響により、全国的に建築費が急激に上昇しており、今後さらに建築費が増加する可能性も高い中、なぜ今、しかも複雑な設計や高額な仕様を前提とした施設整備を進める必要があるのか。加えて、物価上昇により市民生活への負担は年々重くなっており、食費、光熱費、医療費など、生活に直結する支出が増える中、多額の税金を巨大建築事業に投入することが、本当に今優先すべき政策なのか疑問。限られた財源だからこそ、市民生活支援、防災インフラ維持、福祉、子育て支援など、より直接的に市民生活を支える分野を優先すべきではないか。	震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会報告書を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと、沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備してまいりました。これから整備する中心部震災メモリアル拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、音楽ホールと複合整備することを決定したものです。また、沿岸部は津波被災の体感、中心部は過去の災害を含めた「災害を乗り越える文化」の発信と、それぞれ役割が異なり、沿岸部や他県の被災地との連携により相互に来館者を誘導することで現地での学びの機会の増加を目指しております。また、本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様により豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。	令和8年7月9日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
100	周囲に自然が多い所に大きなビルがあると、圧迫感・威圧感があるので、これを避けるためにビルの外観を木の葉のデザインにしたとのことですが、しかしそうした印象を持つ人は少数です。スケールが大きいと捉えるのが普通です。マイナスには捉えません。周囲には地下鉄駅、国際センター、美術館等の建物が沢山あります。 またデザインは失礼ながら美しいとは思いません。また建物の内側から見ると葉が長く且つ先が上方にめくれているので、ロビーから下の方が全く見えません。前方を見ると葉に切り取られた景色が異様です。 設計者の藤本壮介氏は、「ホールの配置見直しに伴い、施設の中心を大ホールからロビーに変更した。結果的に多目的に使用できるロビーがハブ(結節点)となり、全ての空間がつながる施設になった。」と述べています。(河北新報 2025.12.30) ロビーという言葉に、中心部震災メモリアル拠点を含めていると思われますが、施設の中心は延床面積の点でも音楽ホールであり、メモリアル拠点はかなり小さいです。仙台市は、芸術文化と災害文化の交流を目的としているのであり、あらゆる文化の交流と言っているわけではありません。この点藤本さんに十分伝わっていないため、ロビーが中心という、それも膨大なスペースを要する設計になってしまったのではないのでしょうか。 せんだい3.11メモリアル交流館の展示のための床面積は小さいです。壁に写真を貼ることや立体地図が主です。その他交流室・ワークショップ室等です。中心部震災メモリアル拠点に、防災学の展示その他を加えてもそれほど床面積は広くならないと思います。 展示等は少ない移動距離で全部見られるようにすべきです。それぞれの展示が関連性を持っているのであり、離れた所に置くこと説明が重複することにもなります。平面的にも立体的にも歩き回らなければならないのは大変です。 また仙台市は、国際センターにおける国際学会等で会議室等が不足し一部会場を分散しているため、対応策として複合施設に会議室等を併設するとしています。これはやはりまとまって配置されるべきです。吹き抜けロビー1階から4階のあちこちに配置したのでは混乱を招きます。 メモリアル拠点の展示等の具体的内容を決め、その配置と延床面積を概略図面にして、藤本氏に提示し設計の見直しをお願いすべきだと思います。同様に国際センターも利用する会議室等の数・延床面積・配置等も概略図面にして見直しをお願いすべきです。 音楽を聴いたり演劇を観たりするのは、東日本大震災をテーマにした作品は別として、楽しむためです。音楽ホールに来た時、合わせて震災メモリアルを見ることは殆どありません。その逆も殆どありません。日を違えて訪れます。 設計図を見ると各階ロビーには透明の柵があるものの、3階や4階から下を見ると恐怖感を覚えるのではないのでしょうか。多数の椅子が階段状に並べられ下が見えるようになっています。上の階に行くにつれフロアの面積は少なくなり、吊り橋状の幅の狭い通路もあり恐怖感が増します。吹き抜け空間が広大過ぎます。大幅に減らすべきです。 地震対策として免震構造(設計図ではゴムダンパーが描かれています)を採用していますが、横揺れに対応するものであって、縦揺れには対応していません。各階のフロアから人が落下する危険があります。設計を見直すべきです。	外観デザインにつきましては、青葉山エリアの豊かな自然環境との調和を図るとともに、建物の規模による圧迫感の軽減を意図し、屋根を分節する構成としておりますが、受け止め方には様々なご意見があるものと認識しております。引き続き、景観や利用者の視点を踏まえた検討を進めてまいります。 また、ロビー空間については、多様な人々が交流し活動が生まれる「開かれた広場空間」として、施設全体をつなぐ重要な役割を担うものと考えております。一方で、音楽ホールや中心部震災メモリアル拠点の機能・規模とのバランスについてのご指摘も踏まえ、空間構成や機能配置のあり方については、引き続き検討を行ってまいります。 中心部震災メモリアル拠点の展示につきましては、既存のせんだい3.11メモリアル交流館等との連携を図りながら、震災の経験と教訓を効果的に継承・発信することが重要であると考えております。展示内容や配置については、来館者の回遊性にも配慮しながら検討を進めてまいります。 ワークショップスタジオ等の諸室配置については、ロビーを中心とした一体的な空間の中で多様な人々の交流や活動の重なりを生み出すことを目的として検討を行っており、音楽ホールと震災メモリアル拠点の両機能が連携することにより、新たな気づきや学びの機会を創出することを目指しております。 安全性の観点につきましては、吹き抜け空間のあり方や動線計画について、多くの方に安心してご利用いただけるよう検討を進めております。また、免震構造の採用により高い安全性の確保を図るとともに、引き続き必要な対策を講じてまいります。	令和8年7月9日
101	市としては何が何でも予算がいくらかかろうとも客席2千のサラウンド型ホールを建設したいようですが、前回の意見交換会で多数反対意見が出ております。私はあの場で最後に質問したかったことがあったのですが、残念ながら時間切れのため質問することができず非常に残念に思っている点があります。 あの場で「県民会館が2千席を備えるなら、複合施設に客席2千は不要」「高額な建設費がかかる移動式サラウンド型ホールは不要」「高額な建設費と維持費がかかる複雑な外観は不要」という意見が多数だったと思っております。何ならあの場で市の計画通り高額な建設費と維持費が見込まれる施設を必要としている人は挙手お願いしますと尋ねたいくらいでした。 それなのに市職員さん方はあの場の多数意見を無視し、当初案を押し通す以外考えていないように見受けられました。あれほど計画通りに推進しようとしている責任者はいったい何方なんでしょうか。もしかしたら関連会社に職員が多数天下りして、今更計画が変更できない状態になっているのではないのでしょうか。そんなことはないというのであれば、関連会社名とそこへの天下り人数、支給されている報酬の最大及び最少額並びに平均額を公表してもらいたいと思うのですが、おそらく公表できないのではないかと疑っております。もちろん悪い意味で。 また、ホールの来場者見込みにも若干触れられていましたが、地下鉄東西線の需要見込みと同じでありにも数字を盛りすぎです。詳しい数字は今では覚えていませんが、あの場で単純計算したところ千人集まる催しが年間300回開かれるという数字だったはず。いったいだれがどんなイベントを念頭に計算したのか、県民会館や市民会館の利用実績がどの程度なのかと併せて、この点についても是非伺いたかったところです。 音楽を愛好する市民が必要としているのは、音響が良くて使い勝手の良いホールです。建築家の自己満足を含めて高額な税金を注ぎ込んだホールではありませんし、高額な建設費と維持費で次の世代に多額の負担を負わせるホールではありません。少ない予算で建てられた趣味のよいホール、真に市民のためのホールを求めます。 何でもかんでも詰め込みすぎて高額になりすぎた現行案をベースに、震災復興施設を含めて、削るところは削ってスリムにしなければ、いったい誰に喜んでもらえる施設なのかと問い詰めたいくらいです。	大ホールの規模や形状につきましては、仙台市内にこれまで大編成のオーケストラや全国を巡回する公演、吹奏楽・合唱の全国大会などに適した規模の施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められてきたことや、劇都としての本市の都市個性ということを踏まえ、文化芸術の総合拠点として多様な実演芸術の公演に対応できる転換型のホールとして計画しているところです。 来場者見込みにつきましては、既存施設の利用実績や類似施設の実績等を参考にしたが算定したものであり、魅力的な公演やコンテンツの実施などにより、国内外からより多くの来館者を呼び込めるよう、検討を進めてまいります。 これまでいただいたご意見につきましては、いずれも貴重なものとして受け止めておりますが、本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 本施設は、多様な文化芸術活動を支えるとともに、震災の経験と教訓を継承し、将来世代へとつないでいく拠点として整備を進めているものであり、いただいたご意見も踏まえながら、より多くの市民の皆様にとって利用しやすく、魅力的な施設となるよう引き続き検討を進めてまいります。	令和8年7月9日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
102	市民会館建設当時は民間に何もなかったので貢献できた。仙台市は人口減少と高齢化進展に突入し避けられない。膨大な費用を投ずる音楽ホールの必要性に疑問がある。広瀬川河川敷に市有地があったからできた計画である。民間施設やホテルなどを利用した団体に費用援助で税金を活用可能する政策もある。それこそが生きた税金で市民サービス向上である。前向きに英断をお願いします。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、検討を進めてきたものでございます。本施設は、今後の人口減少や高齢化の進展が見込まれるなかにあっても、文化芸術と災害文化の発信拠点として、多様な主体の活動が交わることによる新たな価値の創出や、交流人口の拡大などを通じて、将来にわたり本市のまちづくり・ひとづくりに寄与するものと考えております。	令和8年7月9日
103	アエルでの説明会に参加させて頂き、コンセプトやデザインは良いですが、この建設に関しては反対です。不透明な建設費、採算性、駐車場の少なさ、市民の税負担が大きい。計画の大幅な見直しを切望します。	建設費につきましては、基本設計を進める中で設計事業者とコスト削減の協議も重ね、またコンストラクションマネジメント業務の第三者チェックを経て妥当性を確認したうえで算出した金額となっております。今後も詳細の設計のなかで精査を進めるとともに、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し事業費の縮減を図るほか、企業版ふるさと納税や協賛金・寄付金など外部資金の獲得に努めるほか、実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保に取り組んでまいります。駐車場の台数については、多くは地下鉄東西線での来場を想定し、敷地の状況も踏まえ駐車台数を確保しましたが、多様な来館者を想定し、さらなる利便性の向上を図るため、青葉山エリア全体での駐車台数の確保、運営面の連携につきまして、関係部局等と検討してまいります。	令和8年7月9日
104	木造扇形屋根の積雪対策について。法令上の40センチ積雪の強度を確保していることは何うまでもないと思うが、雪が降った後の排雪についての考えを聞きたい。 イラストでは、屋根が高低差をつけて傾斜カーブしているように見えますが、降り積もった雪が徐々に低い方へ偏り、溶けたり凍ったりを繰り返して出来た氷塊などが、屋根の低い側の端から落下する危険があるように思うが、安全対策はどのように考えているのか。 デザインからすると、屋根の上に人が登って除雪作業するようなことは無いと思うので、自然融雪を待つだけだと思うが、雪が溶けるまでの間、屋根周辺の通行を規制するなどの対応になるのか、安全重視への見解を伺いたい。 イラストでは、外周側の屋根は柱と屋根だけでできており、下側からの余熱がゼロの、いわば橋の上と同じ状態で、地表の雪が溶けても屋根の上だけは残ってしまうと思われ、対策を講じる期間と必要性が出てくるのではと思った。 最近では2023年の2月に仙台で21センチの積雪があった。雪国とは言えなくとも、まとまった雪が降る想定は必要と思う。	施設の外觀については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇(ひさし)を深く張り出し、日差しを遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。 また、屋根構造については鉄骨造を採用し、法令に基づく積雪荷重を十分に考慮した構造としております。 積雪時の対応につきましては、自然融雪を基本と想定しており、屋根上での除雪作業は予定しておりません。また、屋根形状は基本的に外側へ反り上がる勾配としており、積雪が屋根外周部に集中して落下することがない計画としております。そのため、通常の積雪時においては、屋根からの落雪を理由とした通行規制を行わなくても安全性が確保できるものと考えております。 なお、詳細につきましては、今後、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入し、開館後の維持管理コスト、メンテナンス性を含めて検討を進める中で、施工予定者からの技術的な意見も踏まえながら、安全性に十分配慮した設計を進めてまいります。	令和8年7月9日
105	音楽ホールはいらない。説明会での担当者の説明が、棒読みで真剣度が伝わってこない。自分は音楽ホールが出来たからって絶対いらない。青年文化センターも行ったことないのに。 仙台市は費用を抑える気が無いだろ。費用抑える気があるなら、設計の段階でどれくらいの費用を落としたのか示してほしい。 音楽ホールを作ることが目的化している。担当者の目標も、仙台市の芸術文化をいかに振興するかでなく、いかに音楽ホールを作るかだ。 自分の周りには音楽ホールに反対がほとんどだ。こういう状況の中で音楽ホールを進めようとする担当者は、いわゆるKYじやないのか。 あらためてはっきり言う。音楽ホールはいりません。こういう意見がよせられていることを隠蔽せず、市民に公表してほしい。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。また、仙台市民会館・戦災復興記念館は老朽化が進み、本複合施設開館後はホール機能の更新を行わない方針としており、その需要を受け止める役割もあります。 一方で、事業費についても設計の検討過程において、外壁ガラス面積の縮減やエスカレーター基数の見直しなど、施設機能や利便性とのバランスを図りながら、事業費の抑制に努めてきたところです。今後も引き続き、必要な機能を確保しつつ、コスト縮減に取り組んでまいります。 本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらし、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。 引き続き整備の必要性や、この施設がもたらす価値について市民の皆さまと対話を重ねながらご理解をいただくとともに、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年7月9日
106	市民説明会での説明を読んだが、市民の質問に対する仙台市の回答は具体的ではなく漠然としたものであるため説得力がない。もう少し、定量的な形で合理的に説明すべきではないか。今のままだと、具体的な検討をしておらず、適当に事業を進めていると市民が思ってしまうかたないと思う。公務員は身分が安定しているからいいが、民間企業であればステークホルダーに対してもう少し丁寧に説明すると思う。あと、質問に回答した人を「仙台市」ではなく、具体的に誰が回答したのか役職を明示すべき。将来、音楽ホールの整備を検証する際に、事業が失敗した際の責任が明確になるようにしておくべきだ。「仙台市」としていることが、担当者が将来責任を負いたくないという心理が見え隠れし、この音楽ホールの整備がうまくいかないと言っているようなもの。	本整備事業については、これまでもパブリックコメントや意見交換会の実施のほか、市民説明会・シンポジウムの開催による市民の皆様との対話の機会も設けながら、進めてきたところです。 引き続き、本施設がもたらす意義や検討経過、期待される効果などについて丁寧に説明するとともに、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。なお、複合施設の整備は市として取り組んでおり、掲載している市の考え方は全て、組織として確認をしたうえで回答しております。	令和8年7月9日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年5月31日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.18～22 No.95～No.108を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
107	いつも感じるが、宮城県と仙台市、それぞれで建設する設備でも、結果、仙台市に建設される場合がおおい。一つの市に建設するのに、長期的、効率的、効果的に、設備計画をしている感じが全くない。県とコンセプトは異なるかもしれないが、ハード面で類似しているか良く考えて、要否を検討すべき。税金が投入されるのだから、補助の有無だけではなく、長期的なビジョンも持ち、他の政令指定都市とのレベル差を少しでも縮める視点も必要ではないか。 要は、この設備は不要、税金を無駄にする割合が高いと考えている。	宮城県立劇場には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれております。 また、仙台市民会館や震災復興記念館は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としており、各館で受け止めてきたホールの需要を、県立劇場一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。こうした状況を踏まえ、これまでも、宮城県との継続的な協議を行い、両施設が目指す姿や整備目的、それぞれが担う役割分担について意見交換を重ねながら整備を進めてまいりました。 また、本複合施設はホール機能だけでなく、仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しており、多くの市民の皆様にも多様な文化芸術の創造や体験の機会を提供してまいりたいと考えております。 今後とも、適切な役割分担のもと、それぞれの施設が最大限に活用されるよう、引き続き宮城県との情報共有や連携を図るとともに、音楽ホールの着実な整備と持続可能な運営に努めてまいります。	令和8年 7月9日
108	音楽ホールは仙台の芸術文化の振興に必要か。私は、金沢21世紀美術館のような美術館が必要だと思う。1000億円もかけるのなら美術館を作ってほしい。音楽ホールはいらない。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところです。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えておりますことから、引き続き整備を進めてまいります。	令和8年 7月9日